



# Anchor アンカー

INSIDE

巻頭言 2  
バチカン・ニュース 4  
コロナウィルスの欺瞞と  
ウクライナ紛争について 7  
罪があっては天国に行けない 24

67号

2023年 1月

マタイ24章に主イエスは世の終わり、再臨の前兆について預言された。6-7に「また、戦争と戦争のうわさ  
とを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。  
民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききん、疫病(欽定訳、明治訳にはあるが、  
それ以後の日本語聖書にはない)が起り、また地震があるであろう」と言われた。

今年もいろんな異例な事件がたくさん起こった。次々起こる異例なニュースを時のしるしとして追跡して解  
説のいとまもないほど、最後の大危機に向かって急速に動いている。「それらは最大の規模をもった事件に近  
づいていることを予告している」(教会へのあかし9巻11ページ)。

毎日のニュースを見れば、ウクライナーロシアの戦争がいかに世界に影響  
を及ぼしているかが分かる。エレン.G.ホワイトは、「もっと恐ろしい戦いの  
武器が発明される」と預言している(スタディーバイブル新574)。7つのラッ  
パの災害が間もなくやってくる。これらの災害が襲ってくる時、世界は「恐怖  
と不安で気絶するであろう」と言われるほどの未曾有の出来事に直面する  
(※黙示録の7つのラッパの災害は、我々は、過去に適用してきたが見直さ  
なければならない。エレン.G.ホワイトは、1890年から未来と言っている(SB  
新592参照)。フランシスコ教皇は「世界は部分的に第3次大戦を経験してい  
る」と指摘した。



ウクライナーロシア戦争の結果、世界の食糧危機を招いていると警告されている。  
「食糧安全保障」という言葉も使われるようになった。物価高騰の問題も世界的に  
なってきた。食糧不足になると世界支配はいともたやすく成し遂げられるであろう。まさ  
しく聖書でいう「飢饉」に入りつつある。



新型コロナの恐怖は世界を覆っている。このパンデミックも加わって、政治、経済、教  
育、宗教に大きな打撃を与えていることはよく報道されている。最近、中国各地でゼロコ  
ロナ政策に対するデモ抗議が一斉に起こった。中国の北京、上海、広州、武  
漢、重慶、成都などで26~27日にかけて、厳格な「ゼロコロナ」政策に抗議  
する大規模デモが相次いだ。上海では数百人が集まって「習近平(シーチン  
ピン)は退陣せよ!」「共産党は退陣せよ!」「コロナ検査はいらない、自由  
が欲しい」と声を上げるなど、異例の抗議行動であった。アメリカでも、日本  
でも起こった。



この大衆による「抗議デモ」がますます頻繁に、これもパンデミックにな  
りつつある。また、最近韓国・ソウルの繁華街でハロウィーンのために集ま  
った群衆が転倒し、158人が死亡するという大惨事が起こった。中には「立っ  
たまま死亡した」人たちもいた。ハロウィーンは異教からカトリックにきたも  
のである。日曜礼拝、イースターを祝うことがこのように世界中に広がって楽



しい祭りとなっている。どうして群衆でお祭り騒ぎをしたがるのか不思議でならない。

日本では、安倍元総理の銃殺事件から、旧統一教会をめぐる論議が大きく取り上げられている。日本人が先祖の供養のことで恐れてどれだけの金が統一教会に流れて行ったことか！「1200億円」の被害と言われている。政府は、騙された人々、被害者救済法、解散命令か信教自由化の論議、…政府は難問を突き付けられている。この問題は、我々に何を教えているだろうか。神から与えられた「個性」をいともたやすくカリスマ宗教に壊されること、社会秩序を乱すようなことで解散命令をだすのか。近未来、新世界秩序を乱すものとして、わが教会に迫害の魔の手が伸べられる日はそう遠くない。



今度のアンカーでは、多くの人の知らない、ウクライナーロシア戦争の真相をビル・ヒューズ先生にひも解いてもらった。

また、サタンがわが教会員に最も知ってもらいたくない真理、至聖所でのイエスの働きについて考えてみた。「我々が今持っていないもう一つの経験」。この真理が分からないと後の雨/大いなる叫びは、決して起こらないし、かつてないほどの大いなる悩みの時、7つの災害に備えができないばかりか、キリストの再臨を迎えることはできないのである。万事はこれにかかっている（大争闘下221参照）。パチカンの世界支配、プロテスタントアメリカの日曜休業令への動き、その他終末のしるしについての警告を発信するメッセンジャー、警告のラッパを吹く器は少なからずいる。しかし、大祭司イエスが今どこで何をしておられるか、最も大事なことに人々の目を向けさせるメッセンジャーは、果たしてどれくらいいるだろうか。

2023年は、世界も、教会も終わりに向かって急激な変化を我々に見せるであろう。「もろもろの民は騒ぎたち」「諸国民は怒り狂う」。食糧不足、エネルギー、人権問題、格差問題等々が各国で抗議デモを引き起こしている。「終わりのしるしはこの世にあふれる、マラナタ主イエスよ早く来ませ、涙をぬぐいてひたすら主を待て、恵のその日を望み祈れ」（アニー・スミス）

サンライズミニストリー代表 金城重博





Advent Messenger

May 27, 2022 by Andy Roman

## バチカン・ニュース

“カトリック教会は、  
世界経済フォーラムで検討された  
様々な問題にすでにコミット(深く関与)している”

記事を読む前にエレン・ホワイトの言葉をもう一度読んでおこう：

### イエズス会の目的について：大争闘上 294

「その(イエズス会)の目的とするところは、**富と権力の獲得**であり、**プロテスタント主義**をくつがえし、**法王至上権**を復興することであった」。

### ローマ教会の目的：大争闘下 321

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、**再び世界を支配**するために、また**迫害を復活**させるために、また**プロテスタントが行なったすべてのことを無効にする**ために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、**あらゆる手段を用いている**。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある」。

記事に出てくる、3人のお偉方は、みなイエズス会士である。

2022年5月25日、バチカン・ニュースは、**世界経済フォーラム**と**バチカンの世界政策**が一致し、バチカンはすでにそれを実行に移していると報じた。これは、世界レベル、地域レベルで多くの WEF フォーラムの議題の最前線にいるカトリック司祭レオニール・キアレロ氏へのインタビューの中で明らかにされたものである。

『バチカン・ニュース』は次のように報じている。

“カトリック教会は、ダボスで開催される世界経済フォーラムで検討される様々な課題に対して、世界的にも地域的にもすでにコミットしています・・・ほんの数例ですが、**Laudato Si'** (ラオダテ・シ) と **Fratelli Tutti** (フラテリ・トゥティ=教皇の回勅) で教皇フランシスコが提案した自然のケアとより包括的な経済の促進に関する観点・・・雇用創出、開発、教育、医療などに関する各種プログラムは、カトリック団体や宗教集会が世界や地域レベルで推進しています。”



私たちは、より公正で、持続可能で、堅実な、そして私たちの共通の家である地球を尊重した経済を再生させなければならないのです。イエスに目を向けながら、私たちはより良い未来に向かって共に歩いていくことができます。#ラウダートシ週間 2022年5月24日

 Disclose.tv @disclosetv

NEW - Klaus Schwab tells attendees at his World Economic Forum in Davos that "the future is being built by us."



7:21 PM · May 23, 2022

6K Reply Copy link

Read 2.6K replies

NEW - クラウス・シュワブは、ダボスで開催された世界経済フォーラムの出席者に、「未来は私たちによって築かれる」と語っています。

**世界経済フォーラム（WEF）の創設者であるクラウス・シュワブ氏は最近、自らの組織は「未来を築く」ための「強力なコミュニティ」であると述べ、バチカンも WEF の政策に賛同している**と発表したばかりである。バチカンは世界経済フォーラムに代表を送り、**共に、私たちのためになると信じる政策を制定し、世界を支配しようとしている**のである。このワンワールド・ガバナンスへの第一歩における指針は、ローマ教皇の回勅『ラウダート・シ』と『フラテリ・トゥットィ』に記されている。教皇が回勅の中で述べていることを心に留めておいてほしい。

「世界経済を管理すること、危機に見舞われた経済を再生すること、現在の危機の悪化とその結果生じるより大きな不均衡を避けること、統合的かつ適時に軍縮、食糧安全保障、平和をもたらすこと、環境保護を保証し、移住を規制すること、これらすべてのために、真の世界政治機関が急務です」(Laudato Si' 第 175 号)。

 Daily Wire @realDailyWire

Biden: "When it comes to the gas prices, we're going through an incredible transition that's taking place that, God willing, when it's over, we'll be stronger...and less reliant on fossil fuels..."



11:42 PM · May 23, 2022

717 Reply Copy link

Read 751 replies

**バイデン**：「ガソリン価格に関して言えば、私たちは信じられないような転換期を迎えており、それが終われば、私たちはより強くなり、化石燃料への依存度も下がるだろう ...」

ジョー・バイデン大統領は最近、私たちは " 信じられないような移行 " の真っ只中にいると述べた。この転換期の終わりには、私たちは「より強く」、「より化石燃料に頼らない」存在になる。世界経済フォーラムもローマ法王の回勅も、この立場を支持している。彼らは、石油やガスを段階的に削減し、" グリーンエネルギー " に頼らざるを得なくすることを望んでいるのである。**グレート・リセット**は、この目標を念頭に置いて作られたのである。

コロナの大流行による事実上の自宅監禁、圧制的な医療義務、食品価格の高騰、燃料費の記録的な高騰、供給ラインの混乱、肥料の不足、粉ミルクの不足は、すべて「驚くべき移行」の一部だというわけである。これが記録的なインフレで経済を破壊する理由なのだろうか？これが、私たちの政府と生活様式を変えるために使われている戦術なのだろうか？現在のシステムを崩壊させ、国民が絶望しているときに解決策を約束する？それはマルクス主義革命の構成要素であり、歴史上すでに起きていることだ。

ほんの2、3年前、前政権下で我が国がエネルギー面で自立していた頃を覚えているだろうか？ガソリン価格もインフレ率も低かった。しかしジョー・バイデンによれば、私たちは活気に満ちた豊かな経済から、新たなグリーンディールへの移行期にある。バイデン

はキーストーン・パイプラインを中止し、連邦国内での石油・ガスのリースを停止し、パリ気候協定に再加盟した。

つまり現在、ガソリン価格が大幅に上昇しており、もしかしたらそれが化石燃料の使用を終わらせるための計画なのかもしれない。ガソリンが高くなりすぎて、電気自動車に移行せざるを得なくなるわけだ。問題は、燃料費の増加は、輸送する商品の価格に直接影響することである。また、コストアップの結果、個人や企業が支出を控えるので、経済成長や製造業に悪影響を及ぼす。いわゆる「手ごろなグリーンエネルギー」は、気候変動擁護派やグローバリストによって流布されている多くの嘘のひとつに過ぎない。手ごろな値段ではなく、あまりにも高すぎるのだ。

ディーゼル燃料の高騰により、輸送費は急速に値上がりし、庶民の家計を圧迫している。ガソリンの値段が1ガロン10ドルになったらどうなるのだろう？グローバリストはこのような混沌としたシナリオが好きなのだ。これは意図的なものである。食糧不足、戦争、ガス危機、パンデミック、乳児用粉ミルクの不足、気候危機はすべて、パチカンや世界経済フォーラムにいるグローバリストのエリートたちが作り出したものであり、国家日曜法も含まれる。

黙示録 1:3「この預言の言葉を朗読する者と、こ

れを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。**時が近づいているからである**」。

「サタンは、人間のうちにある神のみかたちをいやしいものにすることに成功したと狂喜していた。その時イエスが、人間のうちに創造主のみかたちを回復するためにおいでになったのである。罪のために墮落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりほかにない。主は人間の意思を支配していた悪霊を追出すためにおいでになった。主はわれわれを塵の中から起し、**けがれた品性をご自分のきよい品性に型どってつくり直し、ご自身の栄光をもってそれを美しいものとするためにおいでになった**」。1 希望 28

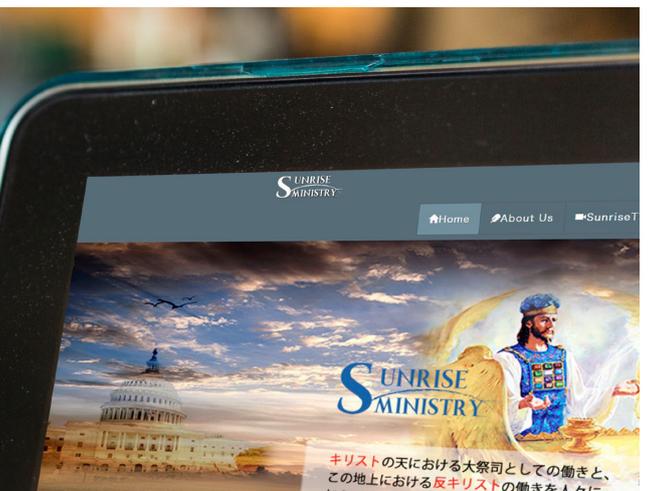
「**罪の赦し**は、イエスの死の唯一の結果ではない。彼は**罪が取り除かれるため**だけでなく、**人間の性質が回復され、美化され (rebeautified)、破滅から再建され、神の臨在に適うようにするために、無限の犠牲を払われたのである**」。5T 537

ご自宅で聖書研究ができます

毎週の説教動画、セミナー等更新中。  
無料書籍も閲覧可能です。  
ぜひご利用ください！

サンライズミニストリー

検索



www.sunriseministry.com



Sunrise Ministry | Youtube Channel

https://www.youtube.com/@sunriseministry



# コロナウィルスの欺瞞と ウクライナ紛争について

2022年7月29日、30日のオンラインセミナーの記録

講師：ビル・ヒューズ牧師  
通訳：砂川 満

## はじめに

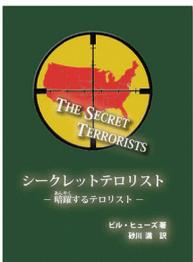
金城：皆さん、こんばんは。今日は初めて海外とのオンラインのセミナーができることを心から感謝しています。

今、全世界で報道されている2大ニュースがありますね。毎日のように報道されていますが、それは、

①新型コロナウイルス、②ウクライナ・ロシア戦争の問題です。まあ、色んな情報が飛び交っており、混乱させられます。

今日は 聖書と証の書の見地から、これらの事をどのように見るか…を、ゲストスピーカーのビル・ヒューズ先生に、ひも解いて頂きます。

ビル・ヒューズ先生は、2014年にサンライズのセミナーに招いたことがあります。



彼は「シークレットテロリスト～暗躍するテロリスト～」「真の黒幕は誰であるか」などの研究の専門家でもあります。他にも「敵のマスクを剥ぎ取る」という本も書いていますが、これは翻訳されていません。早速、講義に移ってもらいましょう。

## 「コロナウィルスの欺瞞」 “CORONA VIRUS DECEPTION”



こんばんは。皆さんと、こうして時間を共有できることを嬉しく思います。何年か前に皆さんと共に過ごした思い出がよみがえってきます。今

晩こうして特別に皆さんにお話しできることを喜ばしく思っています。

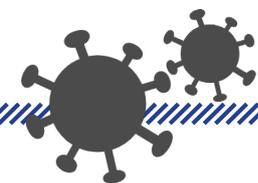
聖書・証の書という神様からの靈感を受けた書物・真理の光が私達に与えられていることは、本当に感謝です。今世界で起こっていることを正しく理解するには、聖書と証の書を用い、それに基づいて世界情勢を見ていく以外にないのです。

## 本以上の本！



「各時代の大争闘」の表紙の絵です（英語版と日本語版の別名「歴史と聖書の預言」）。

この本は、単なる本ではありません。本以上の本です。キリストとサタンの間の闘いの観点から、今世界で起こっていることを正しい世界観で導いてくれる本です。キリストとサタンの大争闘は、この世界で今も繰り広げられていて、最終的に2つの**礼拝日**に焦点が当てられるようになります。この本は、すべての**自由と律法（法律）**を破壊しようと躍起になって、この世界で暗躍している**真の黒幕、悪魔の代理者を明確に特定し、暴露している**のです。



## この世における悪魔の代理者！



この世界で悪魔の代理者として働き動いている者は一体誰なのかを、私たちは問わなくてはなりません。世間では、トルコ・フランス・イスラム・共産主義・CFR・三極委員会、国際銀行家・ユダヤ人…など、世の中を操っている者が誰か？について様々な議論が交わされています。

これらの勢力に関して、大争闘は「否」「NO」と言っているのです。世界の黒幕としてトップにいるグループ、これらの一つとして考えるならば、あなたは証の書から外れています。

**悪魔の代理者**：それは**ローマ教皇庁**です！

私たちが今日問うべきことは…

## 私たちは誰（何）に耳を傾けているか？

今、世界で起きていることを私達に伝えているのは、テレビ・ラジオ・新聞でしょうか？

そういったものをメインに私たちは情報を得ているのでしょうか？

あるいは聖書・証の書を中心にして、そこから世界情勢を知ろうと努めているのでしょうか？

特に新型コロナ騒動が始まってから世界は大騒ぎしていますが、この時勢にあって私達はどの声に耳を傾けているのでしょうか？

そして今年になって、ウクライナ紛争が勃発しました。こういった世界情勢を正しく理解するには、聖書と証の書、特に大争闘に基づかないといけません。

「私たちには、より確かな預言の言葉がある。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照らすまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい」。Ⅱペテロ 1:19、一部欽定訳

この世界を覆っている欺瞞という暗闇は余りにも闇が深く、そういった中で安全に道を進むには、闇の中で光輝いている神の預言の言葉に耳を傾けなくてはならないのです。

## エルサレム滅亡の預言

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたしは言っておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時まで、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう」。マタイ 23:37-39

イエス様は、当時の人達に、「あなたがたは預言者の声に耳を傾けなかったので、その結末は滅亡である」と仰いました。聖書や各時代の争闘などの声に、私たちは是非とも耳を傾けなくてはなりません。それらの声に耳を傾けることを選ばずに、代わりにラジオ・テレビなど一般メディアの声ばかりに重きを置かなければ、私たちは暗黒の中を歩かなくてはならなくなるのです。

## ショックを受けた弟子たち

エルサレム神殿でイエス様のあるお言葉を聞いて、弟子たちはショックを受けました。この壮麗なエルサレム神殿が破壊されてしまうと、イエス様が仰ったからです。

マタイ 24 章で、イエス様の言葉を聞いてショックを受けた弟子たちがイエス様の元にやってきて、「それは本当に確かなことなのですか？何かの間違いじゃないですか？」と尋ねたことが、聖書に書かれています。

「イエスが宮から出て行こうとしておられると、弟子たちは近寄ってきて、宮の建物にイエスの注意を促した。そこでイエスは彼らにむかって言われた、『あなたがたは、これらすべてのものを見ないか。よく言っておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう』。またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、『ど

うぞお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか』。マタイ 24:1-3

エルサレムの神殿は、当時の世界の人たちが本当に驚嘆し不思議に思う建造物の一つでした。イエス様が、この立派な神殿が崩されて更地になってしまう時が来ると仰って、弟子たちは本当に驚きショックを受けたのです。

イエス様に神殿破壊のことを尋ねたとき、このエルサレム滅亡・神殿破壊という出来事は余りにも大きすぎると考えた弟子たちは、その時はイエス様が再びおいでになる再臨の時に違いないと考えて、エルサレム滅亡と再臨を一緒にたにしてしまったのです。2つの出来事を一緒にして、神殿が破壊される時は、すなわちイエス様の再臨の時だと考えました。

## 二重の適用！

しかし、ご存知のように、紀元70年にエルサレム神殿は都もろとも滅亡しましたが、イエス様の再臨は未だ起こっていません。これら2つの出来事・事件は、同時には起こらなかったわけです。イエス様ご自身は当然、この2つの出来事・事件は何千年という時を隔てる別個のものであると認識しておられました。ただしイエス様は、いちいち「これは別だよ」と言われず、一つの答えとして弟子たちに与えられたのです。弟子たちに言われたエルサレム滅亡の時に起こったような出来事は、キリストが再臨なさる直前にも起こると言われたのです。

ですからマタイ24章は、「二重の適用」と言えますが、二重に当てはめることができるのです。

- ①エルサレム滅亡の際に起こる出来事
- ②主の再臨の頃に起こる情勢

マタイ24章は、現代の私たちに対する預言なのです。

私達が尋ねるべき大きな質問は、これです。

私たちは、今、誰の声に耳を傾けているのでしょうか？

み言葉を通してキリストの声に、耳を傾けているのでしょうか？それとも、

現代の様々なメディアを通じて語る人間の声に重き

を置いて、耳を傾けているのでしょうか？

Ⅱペテロ1:19で読んだように、より確かな預言の言葉が与えられているのです。み言葉以外の言葉は、私たちが頼ることができる確実なものではありません。

## マタイ24章でイエス様は何と仰っているか？

イエス様はいろんな事について話しておられ、地震と戦争のうわさ・飢饉・地震などが、いろんな所で起こると仰いました。荒らす憎むべきものが現れる。そして、キリストに従う者たちは迫害に遭うことも言われました。しかし、イエス様が24章の中で4度も繰り返され「本当に気をつけなさい」と警告なさったことがあります。

「そこでイエスは答えて言われた、『人に①惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、②多くの人を惑わすであろう』。マタイ24:4,5

「そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。また多くのにせ預言者が起って、③多くの人を惑わすであろう」。同24:10,11

「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、④選民をも惑わそうとするであろう」。同24:24

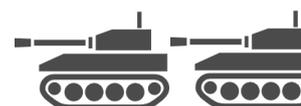
今日、現代に至るまで、イエス様は神の民に向かって、マタイ24:4-5で警告しておられるのです。

それから10節と11節で既に3回、イエス様は「欺瞞に気をつけなさい。注意しなさい」と警告しておられます。24節で、「選民をも惑わそうとする」とも仰っています。欺瞞についてもう4度も、イエス様は警告を与えておられるのです。

この地球歴史の最終時代に向かって、あまりにも多くの惑わす声が私たちのうちに現われ、そして様々な偽り・嘘を信じ込ませようと、あの手この手で欺き、欺瞞を仕掛けてくるのです。

## 欺瞞（ぎまん）

イエス様は4度にわたって欺瞞について警告を与えられましたが、欺





瞞・欺きとは、どういう意味でしょう？

「誰かに偽り、または無効のことを、真実または有効のこととして受け入れさせる行為：虚偽と詐欺の手法にうったえる欺きの行為」(ウェブスター辞典より)。

ここで一つ質問したいのですが、私たちが、こういったサタンの欺瞞に陥ることがあり得るのでしょうか？

あるいは私たちが本当にだまされているということがあるのでしょうか？

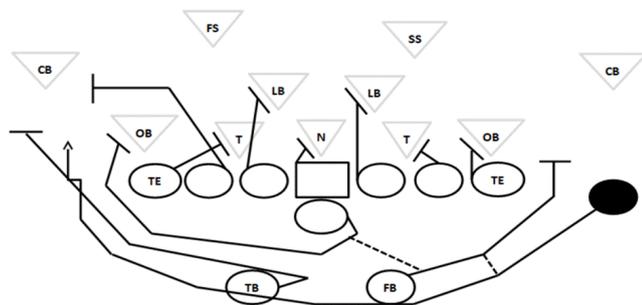
コロナウィルス・ウクライナ紛争に関して、私たちは何かだまされてはいないのでしょうか？

私たちが欺くために、新型コロナやウクライナ紛争に関して、何か語られていないことがあるのでしょうか？

イエス様は4度も、欺瞞に対して、私たちに注意を促されました。

## 図で説明しよう！

### Jumbo Pro Right Z Reverse



上の図を見ても、恐らくチンプンカンプンだと思います。色んな○や□や△がちりばめられていて、右側に黒塗りの●もあります。実は、これはアメリカンフットボールというスポーツの配置図で、フットボールを競技するときのそれぞれのチームメンバーの位置を表しています。

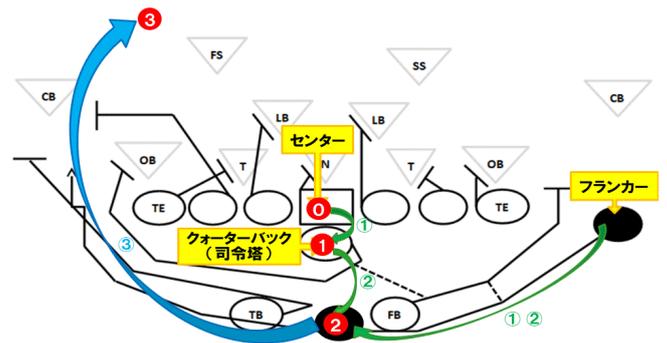
私が13歳、中学生のとき入っていたフットボールのチームで使ったある作戦を表した図で、実は、その作戦を用いると必ず得点に結びついたという経験があります。必ず得点を入れられた、毎回成功した理由は、相手チームをまんまと騙し欺くことができたからです。

この図を説明すると、真ん中の□の真後ろにある○が私のポジションで、クォーターバック(司令塔)です。

真ん中の□センターの人に近づいて行く時に、私が「レディセット」と言って合図を出すと、みんなが片膝について攻撃態勢に移ります。私が「ハットワン」と言うと、この黒い●の人が真ん中に向かって走り出します。そして「ハットワン」「ハットツー」「ハットスリー」と言うと、言い終わる頃には、大体フィールドの真ん中辺りまで黒●の人が走ってきています。そして「ハットスリー」と言った途端に、センターの人が私にボールを手渡します。この時点で、フランカーというポジションの黒●の人が私からボールを受け取って、この2人(FB,TB)が傍についてボールを持ったフランカーを守って前に進もうと試みます。いかにチームとして前進できるかが、アメフトでは重要なので、ボールを持った人が前に行けるように皆で協力します。最初のトライで、大体10~15メートルくらい前進することができます。最初のプレイで、そこまで前進して、再び、皆でポジションについて動き始めます。

## 1・2度目 **図で説明しよう!**

### Jumbo Pro Right Z Reverse



「レディセット、ハットワン」と私が指示を出すと同時に、また黒●のフランカーがセンターに向かって走り出します。最初の時と全く同じような動きをするわけです。私が「ハットスリー」と言った頃には、彼が真ん中、私のすぐ後ろの方に来てボールを受け取ります。そして皆で左側に向かって前進を試みます。最初の時と同じように同じ動きをするので敵にも手の内がばれて、2度目は5ヤード位しか前進できません。

そして今度は3度目の試みになりますが、同じようにポジションについて、私が「レディセット、ハットワン」と言って指示を出します。すると、また黒●のフランカーが、フィールドの真ん中に向かって走り出します。そうしたら相手チームは、どうすると思いますか？またか…という感じで、フィールドの左側に全員動き出します。私がやろうとしていること、私たちの動きは完全に読んだと彼らは考えるのです。黒●の人が真ん中に来てボールを受け取って、こっち側に向かって前進を試みる、手の内が分かった、同じ作戦で来ると、彼らは考えたわけです。防御のチーム全員が





自分が武漢の研究所でコロナウィルスを開発させておきながら、その解決法も自分が持っているというわけです。ファウチが提案した解決法は、まず教会を閉鎖させ宗教自由を破壊し、仕事に行くのを禁止する、すなわち人々の市民権・民衆の権利をはく奪したことです。子供たちが学校に行くことを止めさせ、教育の権利を奪ったのです。そうすることによって世界経済を混乱に陥れました。そういったことが、カトリックで訓練を受けたイエズス会の手下ともいえる人物によって、すべて成されたわけです。彼らが裏で手はずを整えて、すべてが起こりました。神様が私たちに与えられた、ありとあらゆる人としての権利を、彼らは奪っていきました。人が享受すべきすべての自由をはく奪すること、これがファウチの目的だったのです。このコロナ騒動を通して、私たち人類が享受していた、ありとあらゆる自由が奪われてしまったのです。

コロナウィルスは、欺瞞だったのでしょうか？

皆が新型コロナに集中し焦点を当てている間に、見えないウィルスに皆が注目している間に、肝心なことが別の所で推し進められていたのです。コロナウィルスは確かに実在する本当の現実のウィルスですが、それが私たちの人としての根本的な自由を破壊するのに利用されたのです。このコロナ禍の間に、あらゆる自由が本当に根こそぎ奪われてしまいました。

この自由は元々、中世時代の宗教改革のおかげで人類が享受するようになったものです。宗教自由をはじめとし、基本的人権なども含まれます。そういった私たちが今まで享受してきた、そして享受すべき、ありとあらゆる自由が奪われようとしているのです。

皆さんもお気づきのように、コロナ禍が始まってから現在に至るまで、世界経済が大いに揺るがされました。多くの世界経済学者が、「コロナウィルスは、世界経済を新たに形作るために、完璧なタイミングでやってきた」と言っています。

## 打倒プロテスタント

大争闘の中に、イエズス会について述べられている箇所があります。読み進めていく間に、過去2-3年で起こったことを思い浮かべていただきたいのです。皆さんが過去数年にわたって、どの声に耳を傾けてきたか？どのこういった情報を重んじてきたのか？思い浮かべていただきたいのです。日本には、上智大学というイエズス会の大学があります。私たちは、神様の声に、耳を傾けているのでしょうか？それとも、イエズス

会が発信元の情報に重きを置いて、耳を傾けているのでしょうか？

「プロテスタント主義は、全キリスト教国において、恐るべき敵に脅かされた。改革事業の最初の勝利は過ぎ、ローマはその全滅を期して新たな勢力を奮い起こした。このとき、法王教の全闘士中、最も残酷で無法で強力なイエズス会が創設された。

彼らは、世俗のきずなや人間関係から切り離され、人情も理性も良心もいっさいを無視して、彼らの会以外のどんな規則もきずなも認めず、ただ、その権力を伸張することだけを義務とした。キリストの福音は、その信者たちに、危険を冒し、苦難に耐え、寒さ、飢え、労苦、貧困にもめげず、真理の旗をかかげ、拷問も投獄も火刑も恐れぬ力を与えてきた。

この勢力に対抗するために、イエズス会は、その会員を狂信的にさせ、同様の危険に耐えるように、またあらゆる欺瞞の武器をもって真理の力に対抗するようにさせた。彼らは、どんな犯罪を犯しても罪にならず、どんな欺瞞を行ってもかまわず、どんな偽装もわけなくできた。彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、その**目的**とするところは、**富と権力の獲得**であり、**プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興すること**であった」。大争闘上 293 - 294

**イエズス会の目的は、プロテスタント主義の打倒です。**

プロテスタントの宗教改革は、私たちに何を与えてくれたのでしょうか？

宗教改革のおかげで、私達は市民としての自由、宗教の自由を享受できるようになったのです。宗教改革のおかげで私たちが今享受している自由・権利が、コロナ禍にあって攻撃に遭いました。

## 中国、武漢

中国の武漢研究所で、恐ろしい新型コロナウイルスが開発され、その開発費用がアメリカのアンソニー・ファウチから出



ているというのは、明らかな情報です。ファウチは資金援助した後、アメリカや全世界に対して、その解決はこうだ、と声を大にして語ったわけです。彼が出し

てきたコロナの解決法は、プロテスタント宗教改革によって得られた自由をすべて奪うことでした。

新型コロナウイルスは、もちろん悪い好ましくないウイルスで数え切れないほどの死者を出し、世界中に大きな苦痛を与えています。しかし、プロテスタント宗教改革によって得られた自由、そして世界経済の破壊と比べたら、どうでしょうか？

そっちのほうが、はるかに脅威であり、間違ったことですよね。私たちが宗教改革によって享受するに至った、すべての権利・自由を無きものにするために、新型コロナが利用されました。更に、世界経済を破壊するためにも、新型コロナが用いられたのです。

こう考えたことがありますか？

もしコロナ禍の最中に日曜遵守令・日曜休業令が提案されたら、世界はそれに「はい」と言っただろうか…その流れに乗ってセブンスデー・アドベンチスト教会も足並みを揃えていっただろうか…と考えたことはありますか？

このコロナ騒動によって、日本中世界中の人々が怯えるようになりました。そして恐怖に陥れられた世界中の人々は、何でもする用意ができてしまったのです。セブンスデー・アドベンチスト教会も同様に、何でも従う姿勢が出来上がってしまいました。

皆さんだったら、どうするでしょうか？

過去2-3年、私たちは個人の自由が奪われるのをいとわなかったでしょうか？

皆さんは、喜んで自らの自由を明け渡してきたでしょうか？

メディアや政府が日曜遵守令を推し進めてきたときに、その流れに乗って、私たちの自由を更に明け渡すことになるのでしょうか？

本当に深刻な、誰もが自問自答すべき質問だと思います。

この地球上のすべての自由、そして経済を破壊しようとする画策するローマが最終的に持ってくるであろう日曜遵守に向かっていくコロナ騒動は、その予行演習とも言えると思います。

中国武漢のウイルス研究所から新型コロナが漏れ出て世界中に広まったというのは、もうアメリカでは常識となっており、この恐ろしい問題を引き起こした張本人として注目が集まっています。この研究所でコロ

ナウイルスが開発されたのは確かですが、別に中国人が全ての非を負うべきということではありません。そもそも世界中を騒がすことになったコロナ禍というのは、中国という枠を超えて世界中をひとまとめにするために、法王教によって、あらかじめ計画されたものだったのです。

イエス様は欺瞞について警告なさいました。災いはどこか他のところからやってきていると言われたのです！

コロナ禍が始まった当初アメリカ大統領だったドナルド・トランプは「中国が全部悪い」と言いましたが、実は、すべての騒動の黒幕は、ローマだったのです。

## サタンは何を利用する？！

このコロナ禍にあって、私たちは誰の声に、耳を傾けてきたでしょうか？



情報のほとんどを、テレビ・インターネット・ラジオ・新聞・雑誌などから得てきたのではないのでしょうか？

いわゆる主流メディアから、新型コロナに関する情報を得てきたのではないのでしょうか？

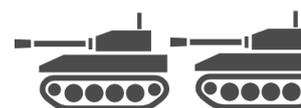
では、メディア・マスコミを支配しコントロールしているのは、誰なのでしょう？

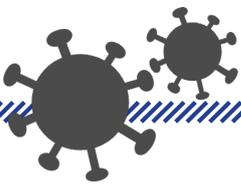
このメディアそのものが、世界の経済を牛耳っている富裕層によって操られているのです。

メディアを操っている世界中の富裕層たちは、彼らが法王教に屈服しているから莫大な富と権力という益を受けることになったと、聖書の黙示録に書かれています。

## 知性の娼婦（男娼）！

イエスの警告と、今日メディアが主な情報発信源であるという事実を踏まえると、ジョン・スウィントンの声明は我々に大きなインパクトを与えることだろう。





スウィントンは100年前の著名なジャーナリスト。自分のためにもうけられた記者クラブの食事会で、彼は次のように語った：「今日アメリカにおいて、独立した報道機関というものは存在しない。それは君たちも私も知っている。大胆にも自身の正直な意見を書こうとする者は、ここには一人もいない。書いたとしても、印刷されることは決してないだろう。自分の正直な意見を紙上に書かないことで、私は給料をもらっている。君たちも同様であろう。もし君たちの中で、愚かにも自分の正直な意見を書こうとする者がいたら、そいつは直ちに失業して職探しに奔走していることだろう。もし私が新聞の記事に自らの正直な意見を出したとしたら、24時間以内に職を失うことだろう。ジャーナリストという職業は、権力者の求めるままに真実をこわし、真っ赤な嘘をつき、曲解し、けなし、へつらうもの。また日々食べていくために自国と同胞を売り渡すものである。それを知っている君たちと私が、報道の独立に乾杯するのは何と愚かなことか！

我々は黒幕である富裕者らの道具であり召使である。我々は操り人形であり、彼らの意のままに踊る。我々の才能も可能性も生命も、すべて他の連中の所有物に過ぎない。我々は知性の娼婦（男娼）なのである。

(Source: Labor's Untold Story, by Richard O. Boyer and Herbert M. Morais, published by United Electrical, Radio & Machine Workers of America, NY, 1955/1979.)

これは百年前の著名なジャーナリスト、ジョン・スウィントンが、記者仲間たちの食事会で語ったことだそうです。実は沖縄・日本・アメリカ問わず全ての世界中のメディアが、富裕層によって支配され操られているのです。

この世界中の富裕層を操りコントロールしているのは、誰でしょうか？

黙示録 18:15 に「これらの品々を売って、彼女から富を得た商人」とありますが、彼女とは誰のことなのでしょう？

フィールドの一方の側で世界中がコロナの攻撃を受けている最中に、フィールドのもう一方の側では、さらに大きな問題が起こっているのです。

## ジゴロ（ひも）

この人たちはアメリカの有名なニュースキャスターで、大いなるバビロンがあなたに聞かせたいことを、そのまま伝えているのです。今日の大きな問題は新型



コロナであると伝えています。

彼らがそう言っている間に、中産階級の雇用や市民・宗教の自由は失われつつあるのです。プロテスタンティズムの最後の砦が消滅しつつあるのです！

メディアの操作によって私達がコロナウィルスばかりに注意が向けられている間に、私たちが享受すべき自由がどんどん消えていっているのです。宗教自由も失われ、あちこちの教会が、またセブンスデーも同様に閉じられて、教会運営がなされなくなりました。現在に至るまで、世界経済が本当に崩れかかっています。メディアが私たちの注意をコロナウィルスに集中させている間に、自由が破壊されてしまっているのです。

ここで再び質問していただきたいのは、もしコロナ禍にあって日曜遵守令が発令された時に、世界中がそれに足並みを揃えて従っていくのでしょうか？そして教会は、どうでしょうか？

私たちにとって、本当に自問すべき深刻な問題・質問であります。

もしそうなったときに、私も我々の教会も世界の流れに乗かって足並み揃えて行くところまで行ってしまおうかなという答えが出た人は、今まで間違った声に耳を傾けてきた結果であると思ったらいいでしょう。私たちの頭の中で、メディアの声の方が神の声より大きく鳴り響いているということです。このコロナ禍にあって、もしアメリカで日曜遵守令が立ったならば、教団としてのセブンスデー・アドベンチストは間違いなく、その流れに足並みを揃えていくことでしょう。

私たちは、どの声に耳を傾けているのでしょうか？

## バビロンが富裕層を支配

「その商品は、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、各種の香木、各種の象牙細工、高価な木材、銅、鉄、大理石などの器、肉桂、香料、香、にお

い油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、馬、車、奴隷、そして人身などである。おまえの心の喜びであったくだものはなくなり、あらゆるはでな、はなやかな物はおまえから消え去った。それらのものはもはや見られない。これらの品々を売って、彼女から富を得た商人は、彼女の苦しみに恐れをいできて遠くに立ち、泣き悲しんで言う」。黙示録 18：12-15



ですから**富裕層**を支配し操っているのは、**ローマ法王教**なのです。

富裕層が、**メディア**を支配しています。メディアは私たちを欺いて

て、**欺瞞**を信じ込ませ、**法王教ローマ**が私たちの耳に届けてほしいメッセージを伝えているのです。そうして**ローマ法王教**は、私たちを騙して、彼らの嘘を信じ込ませているのです！

結局メディアを支配しているのはローマであり、ローマがメディアを通して彼らの作った嘘を信じ込ませようとしているのです。

## 遠大な計画！

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行ったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある。プロテスタント諸国において、カトリックの教会や礼拝堂が数をましているのを見られよ。米国において、カトリック教の大学や神学校が人気を集め、プロテスタントに広く後援されているのを見られよ。米国における儀式主義の発展や、カトリック教会へ入るために新教から脱落する者が多いことを見られよ。こうした事柄は、福音の純粋な原則を尊ぶすべての者が憂慮しなければならないことである」。大争闘下 321、322

すでに申し上げたように、このコロナウィルスは、現実のウィルスであり、現実の災難です。メディアは

様々な専門家・有識者たちを通じて、様々な嘘を私たちに信じ込ませようとしてきました。

現在のアメリカ大統領ジョー・バイデン、世界中で最も裕福な一人ビル・ゲイツたちが、すでに次のウィルスについて警告を発しています。



彼らは予言者なののでしょうか？ 彼らに未来が分かるのでしょうか？

あるいは彼らにそれが分かるのは、自分たちがコロナよりも更にひどいウィルスをすでに作っているからでしょうか？

彼らは私たちの自由を破壊するために、コロナウィルスを利用しました。

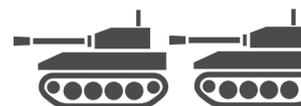
次のウィルスがやってきたら、彼らは何を破壊しようとするのでしょうか？

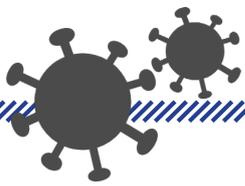
次のウィルスを利用して日曜遵守令を持ち出し、真の第七日安息日を破壊しようとするのでしょうか？

この新型コロナ騒動の光に照らすならば、次の段階のシナリオが本当に現実のものとして迫ってきていることを、私達は自分自身にしっかりと問い明確な答えを出すべき時ではないのでしょうか？

## 獣の刻印と十四万四千

このコロナ禍の間に、黙示録 13 章の預言は容易に成就しうると考えています。





それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。

(黙示録13:15-17)



この地上歴史の本当に最後の時代に、私たちは住んでいます。そして真に正しいこと、真実・真理を擁護するために、イエス様は、私たち一人ひとりを召しておられるのです。

そしてキリストの確かな預言の言葉により頼むように、私たちに訴えておられるのです。そうするとき私たちは、どんな欺瞞にも欺かれることなく立っていることができるのです。

「またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、『全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります…』。黙示録 15：2-3

では最後に、お祈りしましょう。

天のお父様、より確かな預言の言葉が私たちに与えられていることを感謝いたします。不確かな世の中にあって、確かなものとしてより頼むことができるみ言葉が与えられていることを感謝いたします。この世の声によって私たちが欺かれることがないように、どうか引き続き、あなたの確かなみ言葉により頼んで歩むことができるようにお助けください。私たちがあなたにより頼むときに、あなたが私たちを保護し守ってくださるといふ約束を感謝いたします。イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アアメン。

## ビル・ヒューズ Zoom セミナー 2 「ウクライナ紛争」

日本におられる皆さんにアメリカの地から、ご挨拶申し上げたいと思います。昨晚話した事柄について、本当に強調しすぎるといえることはないと思っています。強調しすぎではないと思っている点は、この世の中には2種類の声があること。世界情勢を正しく理解するにあたって、私たちはどこから情報を得ているか、常に問うている必要があると思います。



### 私たちは誰(何)に耳を傾けているか？

右の3人の人物は、アメリカではテレビに毎日出てくる著名なニュースキャスターです。彼らはバチカ



ンによってコントロールされている富裕層によって操られている人たちなのです。そしてローマが民衆に聞いてほしいことを、彼らは伝えているにすぎないわけです。彼らの代理者を通して法王教が私たちに語っていることから耳を背けて初めて、私たちは確かな預言の言葉に耳を傾けることができるのです。昨日も引用した聖句です。

「私たちにも、より確かな預言の言葉があります。あなたたちは、暗いところで輝く光が曙に至るように、あなたたちの心の中に明星が現れるまで、よくよくそれに注意を払いなさい」。Ⅱペテロ 1:19、欽定訳

ローマ法王教とその代理者たちは、常に変化しています。聖書と証の書、特に「各時代の争闘」は、確かな預言の言葉を絶えず私たちに示してくれています。

### ロシアのならず者??

最近、悪名高くなったロシアのプーチン大統領の写真が出ていますが、世界中の報道機関が今、彼が世界最悪の人物であるかのように伝えています。ウクライナ紛争に関して一番の悪人は、このロシアのプーチン



であると世界中の報道機関が伝えています。

プーチンについての報道の一例です。

「プーチン大統領のウクライナへの**執着**は、長年にわたって強まっている。2005年、彼

はクリミア奪還を『ばかげた考えだ』『歴史的不満というパンドラの箱を開けるような**無責任**な行動だ』と言った。しかし、その9年後、彼はまさにそれを実行に移すことになる。2021年の夏までに、彼はロシア人とは別の民族としてのウクライナ人の存在を否定するようになった。今週初め、彼はウクライナ国家の非合法性を宣言した」(カドリ・リイク、シニア・ポリシー・フェロー)。

この一つの短い記事の中で、ウラジミール・プーチンという人物は何かおかしいことにとりつかれた**無責任な極悪人**であると述べられています。

ウクライナ戦争に関して、本当にロシアが悪玉なのでしょうか？

もう一方の善玉と言われている側についても見てみたいと思います。

## 英雄ゼレンスキー



ウクライナのゼレンスキー大統領が水曜日、ズームで米国議会に演説！ゼレンスキー大統領はこのオンライン演説で、ポーランドから

のMiG-29戦闘機の移送を許可するよう、ジョー・バイデン氏への圧力を強化するよう下院・上院議員に働きかけるとみられる。

下院議長のナンシー・ペロシと上院多数党指導者のチャック・シューマーは、議員への共同書簡の中で次のように述べている。

「議会、我が国、そして世界は、ロシアのいわれのない悪質かつ違法な戦争に直面しながら、並外れた勇氣、回復力、決意を示したウクライナの人々に畏敬の念を抱いている」。

アメリカの著名な人たち、大統領をはじめとして下院議長ナンシー・ペロシ、上院多数派の指導者チャック・シューマーなど議員達の中で、このウクライナの大統領ゼレンスキーは、本当に素晴らしい人物だと褒め称えられているのです。アメリカの著名人、偉い人たちが、上のように評価しています。世界中の報道機関が、悪玉はあくまでもロシア、ゼレンスキーをはじめとするウクライナは被害者であり善玉であると伝えています。

## 茶番劇

プーチンは本当に悪人で、ゼレンスキーは善人なのでしょうか？



もちろん、ウクライナの故郷を追われた人々を大変気の毒に思うし、愛する者を亡くした人々には深い痛みを覚えます。

しかし、ウクライナでは実際に何が起きているのか？

なぜ、このような紛争が起きているのか？

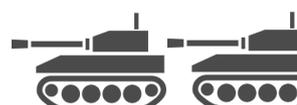
この紛争の背後にある本当の理由は何なのか？

この幕の後ろを開けてみて、本当にそこに何があるのか、聖書・証の書から見ていきたいと思っています。



## 黒幕の正体！

「それから、七つの鉢を持つ七人の御使のひとりが出て、わたしに





語って言った、『さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に対するさばきを、見せよう。地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている。・・・あなたの見たかの女は、地の王たちを支配する大いなる都のことである』。黙示録 17:1, 2, 18

私たちの時代について述べた聖書の預言に、しっかりと耳を傾けて頂きたいのです。この聖句が私達に、何を語っているのでしょうか？

この大淫婦、大いなるバビロンが、地の王たちと結託して活動していることを描いています。黙示録 17:18 を見ると、「大いなるバビロンが、地の王たちを支配している」と書かれています。

ここで質問したいのですが、ロシアのプーチン、またウクライナのゼレンスキー大統領、彼らは聖書で言っている地の王たちと言えるでしょうか？

もちろん彼らはそれぞれの国の支配者です。そして、その地の王たちを大いなるバビロンが支配していると聖書は描いているのです。この地の王たちを支配する、大いなるバビロンが誰であるかは、歴史から、また聖書の記述からも明らかです。大いなるバビロンはローマ法王権であり、中世時代のプロテスタントの宗教改革者たちも、そのことを臆せず述べていました。

今述べたことを、大争闘下巻 83 頁が支持しています。

## 大いなるバビロン！

「黙示録 17 章の女（バビロン）は、次のように描写されている。『この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと…汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、その額には、一つの名が記されていた。それは奥義であって、「大いなるバビロン、淫婦どもの母」というのであった』『わたしは、この女が聖徒の血とイエスの証人の血に酔いしれているのを見た』と預言者は言っている。バビロンは、さらに、『地の王たちを支配する大いなる都のことである』と言われている（黙 17:4-6, 18）。

幾世紀にもわたって、キリスト教国の君主たちの上に独裁的支配を維持した権力は、ローマである。紫と赤、金と宝石と真珠は、華麗な王権にまさる豪華さを誇ったローマ法王権を鮮やかに描写している。また、キリストに従う者を残酷に迫害したこの教会ほど、『イエスの証人の血に酔いしれて

いる』ということが当てはまる権力はほかにない。またバビロンは、『地の王たち』と非合法的関係を結んだと非難されている。ユダヤの教会が淫婦になったのは、主を離れ、異邦人と同盟を結んだためであったが、ローマも同様に、俗権の支持を求めて墮落し、同様の非難を受けている」。大争闘下 83

黙示録 17 章から、バビロンが誰であるか、明らかに知ることができます。聖書と証の書から、このバビロンという権力が何者であるかを、疑いの余地がないほど、はっきり知ることができるのです。

ルターは、ローマを、イスラエルの民を故郷から追放し、捕囚とした聖書のバビロンと同一視し、ローマ教会とローマ法王教が教会を囚われの身にしていると非難しています。ルターによれば、ローマ教皇は聖餐制度とローマの神学を利用して、教会を囚われの身にさせていたのです。

ここまで学んだことを、少しまとめてみましょう。

ローマ・カトリック教会、ローマ法王教は、見えないところで、地の王たちすなわち世界中の国々の支配者たちを支配しています。そして法王教には、法王教のアジェンダ、計画・目的があって、ウクライナ紛争をもくろんだのです。ローマ法王が、プーチンもゼレンスキーもどちらに対しても、陰で糸を引いて彼らを操っている…と聖書を根拠に言えるわけです。

その根拠・証拠を見ることができるでしょうか？

## おやおや、これは

この二つの写真は、何を物語っていますか？



（左の写真）フランシスコ法王の白に対し、ゼレンスキー大統領も夫人も二人とも、黒を身にまとっています。

（右の写真）フランシスコ法王とロシアのプーチン

大統領が対面している様子が写っています。プーチン大統領も黒を身にまとっています。

興味深いのは、地の王たち、ここではゼレンスキーやプーチンさらにその夫人も、黒を身にまとっている点です。

これは私達に、何を物語っているのでしょうか？

## プーチンやゼレンスキーに指揮権はあるのか？

黒魔術において、白という色は卓越した色であると考えられている。白はすべての色から成っており、黒は色の欠如であるとされているため、白は最も強力で、黒は白に屈しなければならないと考えられている。さらに、白は本来、霊的な地位を位置づけるものと考えられている。イルミニストの中でも地位の高い人は白を身につけ、地位の低い人は黒を身につける。イルミニストがローマ教皇に会う場合は、自らの階級の劣勢つまり従属を意味するために、ほとんど黒を身につけることになる。もし、教皇に会う人が違う色の服を着ていたら、その人はイルミニストではないと考えて間違いはないだろう。

先に進む前に、教皇の訪問者に関するこの白と黒の象徴の、決定的に重要な一つの光景を再確認しておこう。イルミニストの考え方では、教皇が白いドレスを着るとき、彼はゾロアスターに追従している。ゾロアスターとは、白を身にまとった太陽神ルシファーのこと！したがってローマ教皇は、自身が神であり、他のすべての人間よりも優れていることを全世界に宣言しているのである。ブッシュ大統領、クリントン大統領、レーガン大統領、エリザベス女王、ネタニヤフ前イスラエル首相が黒い服を着てローマ法王に謁見したとき、彼らは皆、宗教的聖人としての教皇の優位性を認めていたのである！彼らは、教皇が彼らの神であることも認めていたのだ！

私たちが黙示録 17 章で読んだことを、まさに物語っているのです。

白と黒の関係をまとめると、ローマ法王は通常白を身にまとっていて、彼に謁見する人たちは国々の偉い人たちであっても黒を身に着ける。これは事実上、ローマ法王は自分が神であることを宣言しているのです。国の元首たちが謁見する時、黒を着ているのは彼らが法王の権威を認めそれに屈していて、法王が最高位にある神であるとさえ認めているという意思表示です。

この写真が物語っているのは、それぞれの国の元首がウクライナの神・ロシアの神が法王であられ、そし

て、その法王が自分たちに指示を出してその通りに忠実に動く、忠誠を誓っているということなのです。黙示録 17 章の預言が私達に語っている通りのことでもあります。

## 指揮権は教皇に！

指揮権はあくまで教皇にあり、教皇がそれぞれの国ロシアとウクライナのリーダーたちに戦争を起こすように指示を出したということです。

百年前の枢機卿の言葉に耳を傾けてみましょう。



「米国政府が教会と戦争中だとしたら、なぜ我々は明日にでも、『米国政府なんかどうなっても構うものか』と言い、教会と世界中の政府が戦争中だとしたら、『世界中の政府なんかどうなっても構うものか』と言うのだろうか？ 教皇はなぜ、これほどまでに絶大な権力を持つのか？それは、**ローマ教皇が世界の支配者だから**である。世界のすべての皇帝、すべての王、すべての王子、すべての大統領は、ミサの時私に仕える侍者のようなものなのである」(フェラン司祭、ウェスタン・ウォッチマン、1912年6月27日)。

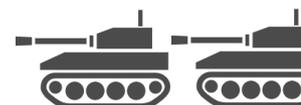
100年以上前の神父が述べた言葉です。ミサで仕える侍者のようなものと言われた世界の指導者たちには、プーチン、ゼレンスキー、バイデン等も含まれるのでしょうか？ もちろん含まれます！これで、第一のパズルのピースがはまったこととなります！

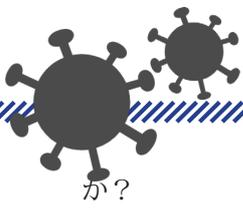
本当に今の声明は驚くべきものだと思います。なぜなら世界中が報道している情報によれば、ローマ法王自身は、ウクライナ紛争に本当に心を痛めていると述べているからです。あたかも全く無関係のように振る舞っています。

しかし実は、聖書からも様々な状況証拠からも、ウクライナ紛争にローマ法王教が深く関わっているにもかかわらず、その事実がなぜメディアで報道されないのでしょうか？

なぜならローマ法王教は、中世時代とは全く体質が変わったという風に装っているからです。しかし、その実は全く当時と変わっていない、本当に血なまぐさい性質を帯びた宗教団体なのです。

このローマ法王権について、聖書はさらに何と述べているでしょう





## 平和の使者が戦争を??

「また、おまえの中では、あかりもともされず、花婿、花嫁の声も聞かれない。というのは、おまえの商人たちは地上で勢力を張る者となり、すべての国民はおまえのまじないでだまされ、また、預言者や聖徒の血、さらに、地上で殺されたすべての者の血が、この都で流されたからである」。  
黙示録 18:23,24

ローマ法王教は、その性質上、神に仕える人たち、聖徒たち、神の業を行う人たち、更に神の言葉を語る人たち、預言者たちを殺し、さらに幾千幾百万という神に仕える人たちの血を流してきたと聖書に書かれています。実は、地球上の戦争、内戦・世界大戦・ベトナム戦争を含む、あらゆる紛争・戦争を裏で糸を引いている張本人は法王教であると聖書の預言が述べているのです。ウクライナで起こっている現在の紛争に関しても、ローマ法王教がその張本人であると言えるわけです。



そういったことを何故、テレビや新聞・ラジオなどのメディアは、私たちに伝えないのでしょうか？

昨日も言ったように、バチカンがあらゆる報道機関メディアを操っているからです。次のように書かれています。

## まさに吸血鬼

エドモンド・パリスの古典「ヨーロッパに対するバチカン」には、「ローマ教皇はオーストリアのセルビアに対する過酷な扱いを容認している。ドイツと戦争になった場合のロシアとフランスの軍隊については、あまり良い評価をしていない。枢機卿は、オーストリ

アが今、戦争を起こす決断をしないのであれば、いつ戦争を起こせるかはわからない」と書かれている。そこには、**真の意味**で、平和の優しい使徒であるキリストの代理者、敬虔な作家たちが戦争の勃発を見て悲嘆に暮れたと表現する聖なる**教皇の姿**があるのだ。- エドモンド・パリス The Vatican against Europe, The Wickliffe Press, p.14.

この声明は、第一次世界大戦がローマ法王教の差し金によって勃発したことを明確に述べているのです。自らの差し金で戦争を起こしておきながら、メディアではこの戦争に対しひどく心を痛めているという態度で世界中に伝えられていくのは、とんでもない話です。

「1914年、ローマ・カトリック教会が一連の地獄のような戦争を始めたとはっきり言うことができる。そのとき、彼女が常に人民から奪ってきた血の貢ぎ物が、真の激流に膨れ上がり始めたのである。」- 同上 p.48.

第一次世界大戦のことを述べていますが、この原則は現在にも当てはまります！！ **ローマは自らの目的のために戦争を起こす**のです！

そして、これから何の目的でウクライナ戦争が起されたかを見ていきたいと思えます。

## よくもぬけぬけと

ウクライナ紛争が始まった時に、ローマのフランシスコ法王が述べた言葉です。

法王フランシスコは、「ウクライナ情勢の悪化により、私は心に大きな痛みを感じています」と述べ、党派的な利益によって平和が脅かされているため、世界中の多くの人々と同様に苦悩し心配していることを付け加えた。

また、「国家間の共存を不安定にし、国際法を信用しない」行為を非難した。

この写真のような形で、法王教は働きかけていきます。

見かけ上は、私達に本当に好意的に花束までくれて愛情に満ちているように自らを見せかけます。しかし、よく見ると、花束を女性に差し向けていながら、後ろの方には刃物を隠し



持っています。聖書は、ローマ法王教の真の正体を、私たちに暴露してくれているのです。実はローマ法王教は、本当にはっきりした理由をもって、世界中の人々に刃物を向けて、私たちに害しようとしているのです。

今年勃発したウクライナ紛争によって、ローマ法王教は、何を成し遂げようとしているのでしょうか？

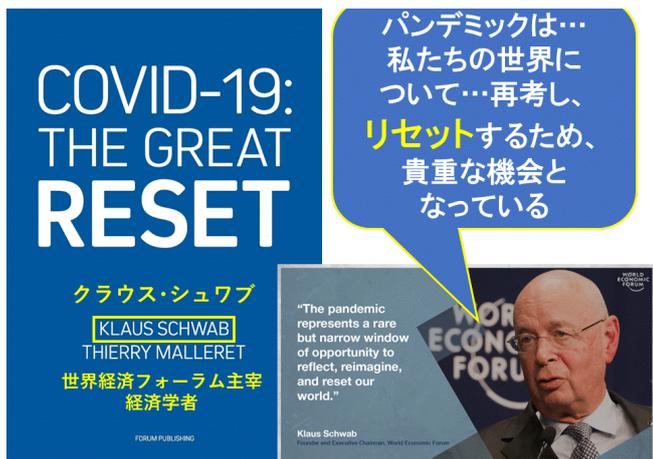
数か月前、ウクライナ紛争が始まる直前の時のことを思い起していただきたいのです。今年1月から2月にかけて、特にアメリカではコロナ騒動が収まりかけていました。そしてコロナ騒動が収まりかけた丁度のタイミングで、ウクライナ紛争が勃発したのです。

もしかしたら こういうことではないでしょうか…。このパンデミックを通じて、ある程度の目的は成し遂げられなくても、すべては成し遂げられなかったことで、それを補うために戦争が起こされたのではないかと考えることはできないでしょうか？ そういう筋書でウクライナ紛争が始まったとは言えないでしょうか？

## 新型コロナ

新型コロナは次のものの攻撃に非常に有効でした。

1. 市民としての自由
2. 宗教の自由
3. 働く権利、学校に通う権利



そしてもう一つ、ローマには、このパンデミックを通して成し遂げなかった目的があったのですが、それは**グレートリセット**というものでした。

まず経済を壊し、すべての人を貧富の差がないように平等にして、ローマ法王教の奴隷となるように仕向けるといったもくろみがあったのです。法王教は、権力をすべて手中に収めるには、お金・富といった経済

を牛耳ることが最善の方法であることを重々承知しているわけです。「金を持っている者がルールを作る権限がある」といった黄金律を、彼らはよく心得ているのです。

**グレートリセット**はクラウス・シュワブの言葉で、パンデミックを契機として世界経済全体のリセットを、世界に呼び掛けました。世界経済とパンデミックを、どのようにつなげたかに注目していただきたいのです。

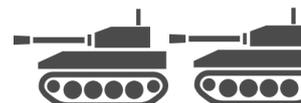


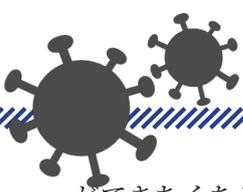
## 怪物のねらい

「2020年の世界的な新型コロナロックダウンとそれによる経済混乱の中、これまで目立たなかったスイスの世界経済フォーラムの創設者クラウス・シュワブが、パンデミックを契機として世界経済全体のグレート・リセットと呼ぶものを世界に呼びかけ登場した。2020年7月には、その青写真をまとめた本まで出版している。まさに、グローバルなトップダウン中央計画によるテクノクラート社会と呼ばれている。シュワブ氏は、地球温暖化への懸念や世界の貧困層の窮状を利用して、ダボス会議のウェブサイトにあるように、実質的には誰も何も所有しないグローバルな全体主義を目指す計画を正当化しているのだ。

あまり知られていないのは、シュワブ氏のディストピア計画のインスピレーションが、1970年代にブラジルで出会ったカトリックの司教から得られているという事実である。その司教は、シュワブの広大なグローバルリストのネットワークと、現在のローマ法王フランシスコの強力な政治的影響力を結びつけている。(F・ウィリアム・エングダール ニュー・イースタン・アウトロク 2021年12月24日(金))

黙示録13章にあるような獣の刻印を受けていない者は誰も売り買い





ができなくなるような未来を、まさにシュワブという人は描いていると言えるでしょう。

## みんなが平等！ 政府の押し付け

ロックダウンは経済を潰し、全産業を国有化する方向に持っていき、中小企業を一掃するためのものでした。…2020年10月、ローマ法王は、回勅『フラテッリ・トゥッティ』を發布し、私有財産を潰しにかかりました。

そして、「神からの賜物であるビジネス手腕は、常に他者の発展や貧困の解消に明確に向けられるべきである…」と書きました。彼は、「私有財産の権利には、常に、地球の財産の普遍的な目的への従属が伴い、したがって、それらの使用に対するすべての人の権利も同様である」と宣言しました。

フランシスコ法王が崇敬している人物の一人は誰か…ご存知ですか？

彼が本当に崇敬しているアイドルとも言える人物はトーマス・モアで、16世紀のイギリスの政治家でした。

フランシスコ法王は、このトーマス・モアを本当に日常的に褒めたたえているのです。トーマス・モアという人は、「ユートピア」という本を書きました。その本の中にトーマス・モアは、世界をいかに最善の方向に持っていくことができるかについて、彼の構想を書き記しています。トーマス・モアはユートピアという本の中で、中央集権政治のもと世界中すべての人を奴隷化すべきであるという構想を描いているのです。トーマス・モアによると、「**世界中に指示を出す最高権力者が、ローマ法王であるべきだ**」と言うのです。

これがまさにフランシスコ法王の計画であり、自らが世界の頂点、最高支配者にのし上がることなのです。

パンデミックを通して、フランシスコ法王は、世界中の人々の基本的な人権・自由をはく奪することに成功しました。ただし、まだ成し遂げていないことがあり、それが世界経済の完全掌握であります。そこまではまだ成し遂げていません。

## 油に勝るやり口はない！

世界経済を攻撃するのに、ガソリン価格を上げる以上の方法があるでしょうか？ ガソリン価格が上がれば、他のすべての物の価格が上昇します。すべての人を支配するのに、これ以上の方法があるでしょうか？ このためにウクライナ紛争が利用され、その背後にはローマがいるのです。

「肉桂（シナモン）、香料、香（軟膏）、におい油、乳香、ぶどう酒、（オリーブ）油、麦粉、麦、牛、羊、馬、車、奴隷、そして人身などである。おまえの心の喜びであったくだものはなくなり、あらゆるはでな、はなやかな物はおまえから消え去った。それらのものはもはや見られない。これらの品々を売って、彼女から富を得た商人は、彼女の苦しみに恐れをいだいて遠くに立ち、泣き悲しんで言う」。黙示録 18: 13-15

では、ウクライナ紛争を通して、フランシスコ教皇は何を成し遂げようと、もくろんでいるのでしょうか？

この戦争を引き起こし、世界経済をガソリンの値段・原油価格を含めインフレ状態に持っていき、混乱を引き起こしています。世界中でインフレが起こって、人々は日常的な物を買うのに、これまで以上の負担を強いられています。新型コロナパンデミックを通じて成し遂げることができなかった部分を、このウクライナ紛争を通じて成し遂げようと、ローマ教皇はもくろんでいるのです。獣の刻印を受け獣の像を拜んでいる者以外は誰も経済的に売り買いができなくなるような社会を作り上げようと、ローマ法王はもくろんでいるのです。



あらためて皆さんと共に、私たちにはより確実な預言の言葉が神から与えられていることを感謝したいと思います。ローマ法王教が今日、水面下で何を行っているかを正確に私たちに知らせてくれる預言の言葉があるのです。新型コロナパンデミックとウクライナ紛争を通して、まさに黙示録 13 章に描かれている未来を構築しようと彼らはもくろんでいるのです。こういった中であって、私達に確実な預言の言葉が与えられていることを改めて感謝したいと思います。この本に狂ってしまった世の中であって、より頼むべき言葉が与えられていることを感謝しつつ、そのみ言葉に絶えず依存する生き方を、私たちはしなくてはならないのです。

## 主が勝利を収められる

「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拜まない者をみな殺させた。また、

小さき者にも、大なる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売することもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである」。黙示録 13:15-17



「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大なる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」。黙示録 18:1

お祈りしたいと思います。

天のお父様、私達により確実な預言の言葉が与えられていることを感謝いたします。

私達が依存できる唯一の声が、私達に与えられていることを感謝いたします。

その預言のみ言葉が暗闇に輝く灯火として、なおも光り輝いていることを感謝いたします。

暗闇にいる世の人たちが真理と喜びを見出すための手助けができるように、どうぞ私たち一人ひとりを用いてください。

あなたの計り知れない愛を感謝いたします。イエス様の御名を通してお祈りいたします、アマメン。

## おわりに

金城：ビル先生、本当にありがとうございました。

ビル先生が早朝3時から私たちのために奉仕してくださったことを、本当に感謝したいと思います。

学びの中でビル先生は、世の声ではなくて神の声を聞くようにと強調なさいました。世の混乱させる声ではなく、神のみ言葉と証の書の観点から諸事件をひも解くことを強調してくださいました。世の中の人の考え方とは別の聖書的な預言の霊から見た見方があると思います。神の民として本当に目覚める時だと知らせてくださって感謝します。

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けの側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる」。大争闘下 378

私たちの教会の多くの者がふるわれて、反対の側に加わり最も苦い敵になる、世の中の人と同じ考えになっていく人たちは、ふるわれてしまうということですから、正しい見方をしていきたいと思います。今、私たちがどんなに厳粛な時代に住んでいるか、再び知らされました。願わくば、私たちもこの欺瞞から脱却して、世の人と同じ考え方に流されないように助けを祈っています。ありがとうございました。



# 天国行きに必要なもう一つ の手続き—罪の除去

金城重博

一般に神も信じない人たちが、死んだら天国に行くということをよく言葉に出します。天国の存在も信じていないのに、よくそんなことが言えますね。「〇〇さん、天国から私たちを見守ってください」と。

一般に、キリスト教会も、死んだら天国に行くことを教えています。

聖書は、死んだら信者はすぐ天国に召されることとはないと教えています。死は一時の休み、眠りであり、無意識の状態にあると教えています。(伝道の書、9:5、6; 詩篇 13:3、ヨブ 14:10-12)。死んですぐ天国に行くのではない—死ねば、すぐ義人は天に行き、悪人は罰せられるというようなことは、聖書のどこにも書いてありません。

天国に移される前にもう一つの経なければならぬ行程があります。それは何でしょう？

それは天国に移される前に罪が完全に除去されていなければならないということです。

何年前かにロサンゼルスに行くためにパスポートを準備し、成田空港に行きました。家内と友人の3人でした。私たちはチェックインもすべて済ませて待合室で待っていました。出発時間が近づくと館内放送があるはずですが、聞こえてこないのです。時計を見るともう時間を過ぎているので、おかしいと思い、近くの人に聞いてみると出国手続きを済ませましたかと言われ、その指さしているところに行ってみると、出国手続きと書いてある看板のようなものがありました。急いで私たち3人は下におりました。するとそこは長い行列でした。並んでいたら間に合いそうにありません。聞いたらロサンゼルス行きではありませんか。行列の真っ先に行かせてもらって手続きをしたら、客室乗務員の方が手を振りながら「ロサンゼルス行きの3人の方はいませんか」と大声でこちらに向かって叫んできました。「は一

い」と手を挙げて、「急いでください」と案内に従ってふうふう走ってついて行きました。私たちのために15分も待っていてくれました。飛行機に乗るためには「出国手続き」というもう一つの手続きが必要であったのです。館内放送があったのかも知れません。待合室には大勢の人がいたので聞き逃したのでしょうか。

この経験によって、我々は、現代の真理、天国に移されるにはもう一つの手続き、すなわち「罪の除去」が必要であることを身をもって教えられました。

## この地球から天国に行っている人がいるのでしょうか？いますね！たとえば、

### ①死を経験しないで天に移された人々について：

#### ▲エノク：

「信仰によって、エノクは、『死を見ないように天に移された。…彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである』(ヘブル 11:5)。罪悪のために破滅にひんした世界の真っ只中で、エノクは神と密接に交わる生活を送っていたので、死の力は、彼を屈服することができなかった。この預言者の清い品性は、キリスト再臨の時に、『地からあがなわれ』る人々が到達しなければならない清い状態をあらわしている(黙示録 14:3)。…

エノクは、このような歩み方のゆえに名誉を与えられた。彼は死を見ないで天国に移された。最終時代において天に移される人々は、地上で神と親密に交わる人々である。キリストにあって神と共にある者は、全ての日常生活においてキリストを表わす者となるであろう。利己心は、根元から切り取られるであら

う (MS38,1897年)」。スタディーバイブル旧  
14 創世記 5：24 の注解

### ▲エリヤ：

エリヤは、キリストの再臨の時に地上に生きていて、死を味わうことなく「終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられ」る聖徒の典型であります ( I コリント 15：51、52)。

「死を経験しないで天に移されたエリヤは、キリストの再臨のときに不死のからだに変わって、死を経験しないで天へ移される人々を代表していた」。初代文集 283

## ②死んで復活して天に移された人々について ( 今天にいる )：

### ▲モーセ：

**モーセは死んですぐ復活させられて天に移された。**

「モーセは、キリストの再臨の時に死から甦えらされる人々を代表してそこに立ち会った」。初代文集 283

### ▲イエスと一緒に復活した人々：

「また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。そしてイエスの復活のうち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた」。マタイ 27:52、53

「彼は高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた」。エペソ 4：8

※スタディーバイブル新の注解：

復活が祭司と役人たちに知らされる—イエスの復活の時に墓からよみがえらされたとりこにされていた人たちは、支配なさる君イエスの戦勝記念品であった。こうして彼は、死と墓に対する勝利を立証なさった。こうして彼は、すべての死せる義人の復活についての保証としるしをお与えになった。墓から召し出された人たちは都に入り、復活させられたま

まの姿で多くの人々に現われ、確かにイエスは死から蘇られ、彼らも彼と共に蘇ったのだと証した…。

イエスの復活のときに、死から蘇った人たちがいたことを、祭司や役人たちはよく知っていた。これらの蘇らされた人たちを目撃し、彼らと話をし、「祭司や役人たちが殺した命の君イエスは、死から蘇られた」との証を聞いた様々な人たちから、信憑性のある報告が持ち込まれた (3SP223)。

黙示録 5：9 では、24 人の長老たちと言われている。彼らは地から贖われた人々です。

日本語では、「あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない」とありますが、

欽定訳では、「我々をあがない」となっています。

初代文集 312 によると、

「イエスが、死と陰府に勝利したお方としてよみがえられたとき、キリストの召しに従った者として死んだ多くの義人が、キリストのよみがえりの証人として姿を現した。これらの恵まれた、よみがえった聖徒たちは、栄化された姿で現れた。彼らは、創造の時からキリストの時代までにいたる、各時代のえらばれた聖徒たちだった。…

イエスのよみがえりにつづいて出てきた人たちは、多くの人々に現れて、人類のために犠牲のささげ物が完成されたことと、ユダヤ人が十字架につけたイエスが死からよみがえられたことを告げた。そして、そのことばの証拠として、『われわれは彼と共によみがえった者である』と宣言した。彼らは、自分たちが墓から呼び出されたのは、イエスの大いなる力によるものだと証言した。偽りの知らせが言いふらされたにもかかわらず、キリストのよみがえりは、サタンも悪天使たちも祭司長らもかくすことができなかった。なぜなら墓からよみがえったこの聖徒の団が、不思議なうれしい知らせをひろめ、イエスもまた悲嘆にくれた失意の弟子たちに現れて、彼らの心配を払いのけ、その心によるこびを満たされたからである」。

●ヘブル 9：27 と矛盾するのではないかとある人は言うかもしれませんが、なぜなら、「すべての人は一度死ぬことが定まって、その後さばかれるこ

とが定まっている」と書いているからです。

ヘブル9:27によると、すべての人は、死んで後、裁きという行程を通らなければならないことが分かります。天国にいる、エノク、エリヤ、死んで復活したモーセ、イエスと一緒に復活した人たちはいつ裁かれて罪がなくなったのでしょうか？いつ罪が除去されたのでしょうか？罪があつては天国に住めないはずです。

彼らは、復活ということがあるという事実のサンプルです。生きて主を迎える人々、死んで復活して主を迎える人々のタイプです。

## では天国に移される前に調査審判があるとすれば、何がなされるのでしょうか？

「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め」とパウロは言っています(使徒17:31)。我々は、キリストが再臨なさる前に、調査審判があることを知っています。それは1844年10月22日から始まりました。イエスがその日から天の聖所から至聖所に移って、最後の贖い＝罪の除去をなさり、それが終了すると再臨なさるのです。

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない」。  
大争闘下 217

留意していただきたいことは、「調査審判と罪をぬぐい去る働き」です。この働きが「二千三百日の終わる1844年に、調査と罪の除去の働きが始まった」ことはセブンスデー・アドベンチストはよく知っています。ただ、我々は先駆者たちのように、このことについてあまり言わなくなってきたのではないのでしょうか。「調査審判」という言葉に違和感を感じる人は少なくはないと思います。しかし、黙示録14:6によると「永遠の福音」と言われていいます。調査審判を説いて、最後の贖い、すなわち完全に永久的な罪の除去が説かれていないのではないのでしょうか。私が言っているのは天の罪の記録から除去されることだけではありません。信者の心の宮から罪が除去されて再び思い出さないほど、罪を完全に処理なさるといふ神のご配慮はまさに永遠の福音であると知ると私は心が躍ります!! それは「信仰による義認」の完成です(大争闘下216)。「聖潔の完成」です(大争闘下221)。

## では、いつ、罪は除去されるのでしょうか？再臨の時？再臨の前？

この問題は、何回も書き、説いてきましたが、どうもサタンはこの真理を信者が理解しないように強く働いているように思えてなりません(大争闘下221参照)。

罪許されても、また知っている罪にすべて勝利しても罪はまだ残っている事実は、ルターもウエスレーもエレン・ホワイトも言っています。

再臨の時に罪は完全に除去されるのでしょうか。否、否!! 再臨の時には我々の卑しい体が不死の体に変えられるのです。

「キリストがおいでになるとき、我々の品性は変えられない。これらの汚れた肉体は変えられ、キリストの輝かしいお体のように形作られるであろう。しかし、その時、我々の内に道徳的変化はおこらないのである」。RH 1888,8/7

「キリストがおいでになるとき、我々の卑しい体は変えられ、彼の輝かしい体のようにされる。しかし、その卑しい品性は、その時、清くされることはない。品性の改変は、彼がおいでになる前に起こるのである。我々の性質は純潔で清くなければならない。我々の魂にご自分のみ像が反映されるのを主が喜びをもってごらんになるために、我々はキリストの心を持たなければならない」。OHC278

## では、いつ罪は完全に我々の心から除去されるのでしょうか？

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない」。大争闘下 217

では、再臨前の恩恵期間が終了して「大いなる悩み時」(ダニ12:1)の期間に罪が除去されるのでしょうか。エレン.G.ホワイトは何と言っているのでしょうか？

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心

の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る…。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかつた。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼(イエス)の中にはなかつた。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである」。大争闘下 397

キリストに罪がなかつたような「罪なき完全な品性」は、「多くの者が持とうとしない」経験というのです。

神の言葉は明瞭ではないでしょうか？大祭司イエスが至聖所におられる間に罪が除去される!! その前の段落を見てみましょう：

「かつてなかつたほどの悩みの時が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである」。大争闘下 396

## もう一つの経験：

この罪の除去、罪を思い出すことができない経験は、「今われわれが持つていない」経験だと言われています。罪の赦し、罪に勝利する日毎の経験は、過去の聖徒たちはもっていました！宗教改革者たちももっていました！再臨信徒の初期の聖徒たちももっていました。

初代 393 に主の僕は、1840 年代の再臨信徒のことについて次のように述べています：

「聖徒たちは、至るところで、厳粛で熱烈な祈りの精神を感じた。聖なる厳粛さが彼らの上に宿った。天使たちは、深い関心をもってメッセージの結果を見守り、それを受け入れた人々を高尚にし、この世のものから彼らを引き離して、救いの泉から豊かな供給を得るようにと導いていた。その時、神の民は、神に受け入れられた。彼らの中には、イエスのお姿が反映されていたので、イエスは、喜びをもって彼らをごらんになった。彼らは、完全な犠牲と全的献身をしており、不死の姿に変えら

れることを期待していた」。初代文集 393

彼らは聖霊が示す罪を徹底的に悔い改め捨てて、完全な犠牲と全的献身をして、イエスをご自分のお姿が反映されていたのをお喜びになったと言われています。彼らは聖所の経験を十分にしていました。彼らは主に会う準備ができていたのでしょうか？大争闘下 140 にその答えが書かれています：

「しかし、人々は、まだ主に会う準備ができていなかった。まだ、彼らのためになされねばならぬ準備の働きがあった。彼らは、まず光を受けて、天にある神の宮に心を向けねばならなかつた。そして彼らが、そこで奉仕しておられる彼らの大祭司に、信仰によって従っていくときに、新しい義務が示されるのであった。もう一つの警告と教えの使命が、教会に与えられるのであった」。大争闘下 140

今日も罪に勝利している人たちがいることは確かです。

ルターやウエスレーたちも、彼女自身も持つていなかった経験について、預言者ホワイトは何回も述べています。重要だから何回も言っているのです。執拗に私も読者に強調します。

そのもう一つの準備の働きとは何でしょうか？

『その来る日には、だれが耐え得よう。そのあられる時には、だれが立ち得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる』(マラキ 3:2,3)。

天の聖所におけるキリストのとりなしがやむと地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。この働きは、黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている。

この働きが成し遂げられると、キリストの弟

子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。『その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる』(マラキ3:4)。その時、主が再臨されてご自分のもとに受け入れられる教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、…栄光の姿の教会』である(エペソ5:27)。また、その教会は、『しののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者』である(雅歌6:10)。大争闘下 140,141

「彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない」。大争闘下 393

「〔悩みの時に〕義人たちは、救出を求める熱烈な苦悶の叫びをやめないであろう。彼らはいかなる特定の罪も思い出すことはできないが、全生涯を振り返って、ほとんど良いところを見ることができない。彼らの罪は前もって裁かれ、赦し書き記されている。彼らの罪は忘却のかなたへと運び去られ、それらを思い出すことができなかった」。3SG135(健忘症ではない)

「…彼らは自己の無価値なことを深く認めるけれども、告白すべき悪を隠していない。彼らの罪は、キリストの贖罪の血によってぬぐい去られていて、彼らはそれを思い出すことができないのである」。あけぼの上 220

「…〔最後の贖いにおいて—英文〕真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなる…」。あけぼの上 422

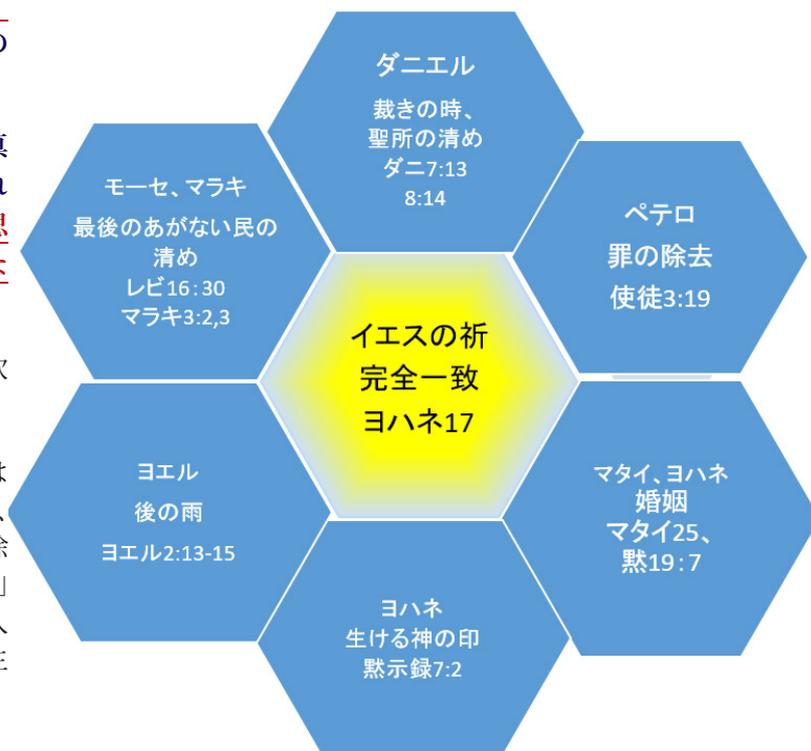
この罪の除去の経験を預言者たちは次のようにも表現しています：

ダニエルは、「聖所の清め」、モーセは「もろもろの罪からの清め、あがない」、ヨエルは「後の雨」、ペテロは、「罪の除去—慰めの時」、マタイ、ヨハネは「婚姻」(マタイ25章、黙示録19:7)(神性と人性の結合—実物287)、黙示録記者は「生ける神の印」。

これは死なないうで生きて主を迎える再臨待望者の経験のことを言っています。仲保者なしで悩みの時を通過する人々のことを言っています。興味深いことに「生ける神の印」のことを、エレン.G. ホワイトは、「全能者の覆い」と言っています。

「今や、サタンはこの印する働きのとときに当たり、あらゆる手段を用いて神の民の心を現代の真理から引き離し、彼らを迷わせようとしている。わたしは、神が悩みのときに神の民を守るために、彼らの上にかけておられる覆いを見た。そして、真理の側に立つ心の清い者は、全能の神の覆いに隠されるのであった。…サタンはちょうどこの印する働きのとときにおいて、このような方法で、神の民の心を反らし、欺き、神から引き離そうとしているのをわたしは見た。ある人々は現代の真理に堅く立っていないのをわたしは見た。彼らは真理にしっかりと立っていなかったので、彼のひざは震え、彼らの足は滑べっていた。そして、彼らがこのように震えている間は、全能の神の覆いが彼らにかけられなかったのである。

サタンは印する働きが終わり、神の民の上に覆いがかけられるまで、彼らをそのままの状態にしておき、最後の七つの災いが下るときに、神の燃える怒りを彼らが避けることができないようにさせようと、あらゆる策を弄していた。神はこの覆いを神の民の上にかけて始められた。そしてそれは、ほふられる日に避け所 (shelter) が与えられるすべての者の上



に間もなくかけられる。神は神の民のために力強く働かれる。そしてサタンも働くことが許されるのである」。初代文集 107-109

●避難所、シェルター（英:shelter）について説明します。

「戦時において想定される核攻撃や自然災害などに対して身を守る『防災核シェルター』の設置が日本は世界の中でも遅れているという。…

『核シェルター普及協会』によると、各国別のシェルター普及率は、スイスやイスラエル（100%）、ノルウェー（98%）、米国（82%）、ロシア（78%）、英国（67%）などに対し、日本は0.02%。深月氏が『なぜ、日本の政治家はシェルター普及に積極的でないのか』と問題提起したことを受け、石破氏は歴史をさかのぼり、第二次世界大戦中に民間人の命が多数奪われた空襲を例に説明した。…防衛費を2倍、3倍にしようが、市民が死んでしまえば、その国はもたないです。そういう議論をしていかなければ、この国は終わる…と私は思う」。 <https://news.yahoo.co.jp/articles/92992a50cdc80e474139c9667d9f681da19588fd>

外国では核兵器やミサイルから逃れるためにシェルターがよく作られているようです。



今日、恐ろしい戦いの武器がどんどん作られています。日本は、北朝鮮のミサイルに脅かされています。これからも国々は様々な兵器の競争に向かうでしょう。

「四人の力強い天使たちが、神のしもべたちの額に印が押されるまで、地の力を引き留めていた。世界の諸国は戦いに熱心であるが、天使たちに抑制されている。この抑制力が取り除かれると、悩みと苦しみの時が来る。恐ろしい戦いの武器が発明される。生き物を積んだ大きな船が深海に葬られる。真理の霊を持っていない者はみな悪魔的勢力の指導の下で一

体となる」。最終時代の諸事件 143



※サタンは千年期が終わった後に、熟練した技術者たちを招集して兵器の政策に取り掛かると大争闘下 449 に書かれています。興味深いので読んでください。

感謝しましょう。「かつてないほどの大いなる悩み」の間、全能の神の覆い=生ける神の印、シェルターが与えられ、神の民は守られる約束があります。詩篇 91 篇。どんな現代兵器、レーザー光線、ミサイルも全能の神の覆いを突き通すことはできません。

「わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、『慰めの時』と『春の雨』（後の雨）とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを受けることができなかった。預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間も無く、天の父の前で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない。この時に先だって『不義なものはさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者は仲保者がなくなり、さらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ』という

厳肅な宣言が発せられたのである。すべての、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するの**でなければ**、だれひとりとして、『**慰め**』にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう」。初代文集 149

上記の引用文に**慰めを受ける**必要が書かれています。それは**後の雨**によって**罪が除去される時**のことです。(大争闘下 382、218)。28 頁の図をもう一度見てください。「罪なき完全な品性」は、大祭司イエスが執り成しをしておられる間に、与えられる経験です。

「慰め=後の雨」によって罪が除去されます。以前にも書きましたが、天ではイエスの血によって記録から罪が消される時、地上の神の宮、信者からは、聖霊によって罪が消されます。

罪の除去について聖句を一つ挙げるとすれば、**使徒 3:19,20** でしょう：

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」。使徒行伝 3:19,20

エレン・ホワイトの注解：

「だから、(調査審判において) 自分の**罪をぬぐい去って**いただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から**慰めのとき**がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、**神がつかわして下さるためである**」。各時代の**大争闘の 1888 年版**には、かっこ内の句が挿入されている。

4 つのことが言われています：

1. 悔い改め (Repentance)
2. 罪の除去 (blotting out of sins)
3. 慰めの時 (後の雨、Refreshing)

#### 4. イエスの再臨 (second coming of Jesus)

エレン・ホワイトは、罪の除去は調査審判においてなされる**として括弧に入れて**います。2, 3 は後の雨—聖霊の働きは同時であるが、どちらが先行するか**という**と、罪の除去です。罪の除去—後の雨は、調査審判の祝福です。

### 生ける者のさばきはいつから始まるのでしょうか？

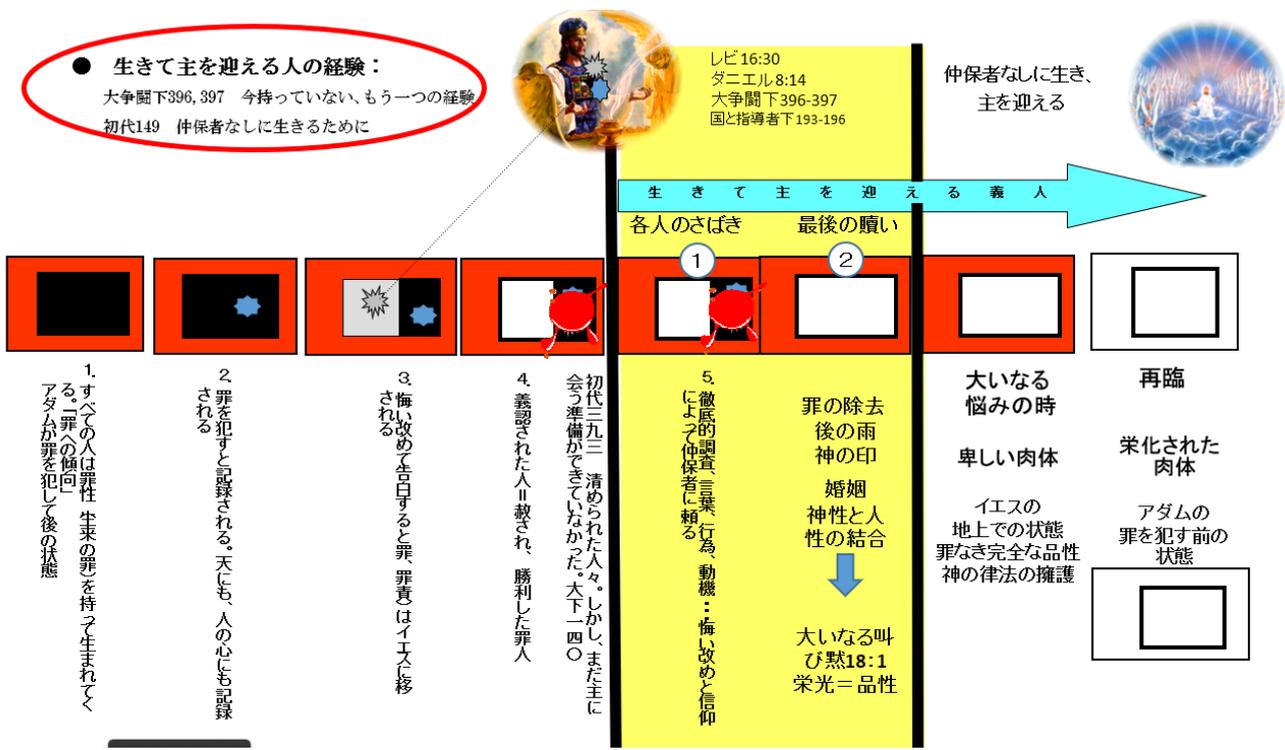
日曜遵守の強要の時から始まります。とすれば、日曜遵守の強要の前に罪の除去と切り離して後の雨を期待するのはいかなるもののでしょうか。勿論今、後の雨を乞い求めなければなりません。主よ早く来たりませと再臨のことを祈ることはいいことですが、どんな順序で事件が起きるかという知的な理解を持っていなければなりません。日曜遵守強要令で**大なる震い**がなされて起きるのであることを理解していなければ、偽りバイバルに巻き込まれてしまうでしょう。

右のチャートを見てください。

調査審判と罪の除去=最後の贖いは切っても切れない関係にあります。①だけを説いていると信者は怖さを感じるだけでしょう。神のさばきは徹底的なものです。マラキは「その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう」(マラキ 3:2) と言っています。しかし**さばきは民を清めるためであり、民を元の状態に回復するため**です。「彼は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる」。

大争闘下 216 ~ 217 頁の記述は、実に福音であることが分かるのであえてまた引用します：

「仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもどって『以前の主権』を彼とともに継ぐ者となるように、嘆願されるのである (ミカ 4:8)。サタンは、人類をあざむき、誘惑することによって、人類創造における神のご計画を挫折 (ざせつ) させようと考**えた**。しかし、キリストは今、人間が墮落



しなかったかのように、この計画の実行を求められるのである。キリストは、ご自分の民のために、完全に十分な許しと義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。

イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。大欺瞞者サタンは、彼らに疑惑を抱かせ、神に対する信頼を失わせ、神の愛から彼らを引き離し、神の律法を犯させようとしてきた。そして今度は、サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘して、これらのことのゆえに彼らは自分の臣下であると主張するのである。

イエスは、彼らの罪の弁解はなさないが、彼らの悔い改めと信仰を示して、彼らの許しを主張なさり、天父と天使たちの前で、ご自分の傷ついた両手をあげ、わたしは彼らの名を知っている、わたしは彼らを、わたしのたなごころに彫り刻んだ、と言われるのである。

『神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をごゆるしめられません』(詩篇 51:17)。そして、ご自分の

民を訴える者にむかって、『サタンよ主はあなたを責めるのだ。すなわちエルサレムを選んだ主はあなたを責めるのだ。これは火の中から取り出した燃えさしではないか』と宣言される(ゼカリヤ 3:2)。キリストは、忠実な人々に、ご自分の義の衣を着せて、父なる神の前に『しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会』として立たせてくださる(エペソ 5:27)。彼らの名は、いのちの書に書きとめられる。そして彼らについて、『彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である』と記されているのである(黙示録 3:4)。

こうして、新しい契約が完全に成就する。『わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。』『主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない』(エレミヤ 31:34、50:20)。『その日、主の枝は麗しく栄え、地の産物はイスラエルの生き残った者の誇、また光栄となる。そして……シオンに残るもの、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあって、生命の書にしるされた者は聖なる者ととなえられる』(イザヤ 4:2、3)。  
 大争闘下 216、217

# 今我々が持っていない、もう一つの経験というの、生きて主を迎えるのに必要不可欠な経験であることを学んできましたが、すでに死去した信者についてはどうでしょうか。

死んで後、調査審判を受ける（ヘブル9：27）。生きて主を迎える人たちと同じ経験は持たない、すなわち後の雨による大いなる叫びの経験をしないが、彼らは死んでいる間に裁かれて、悔い改めて、イエスの功績に頼っていたことが分かれば、彼らの罪は永遠に除去され、復活する時には、「彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである」（1ヨハネ3:29）。

死ぬ信者たちは、決して完全になって死ぬのではありません。勿論、知っている限りの罪を悔い改め、勝利の経験をしていなければなりません。罪ゆるされているが、死んで裁きを受けるまで罪は残っています。死後の調査審判において彼らの罪は除去されるのです。

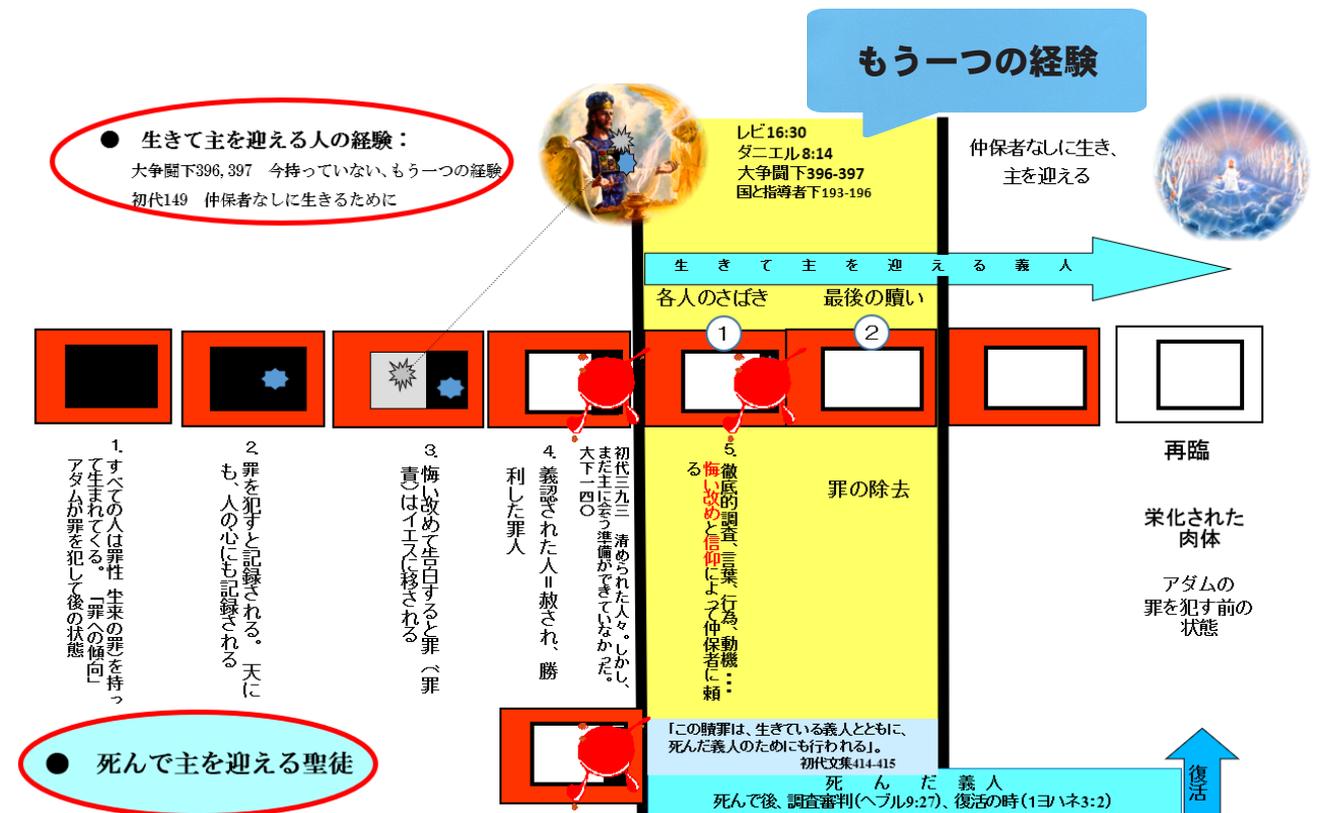
「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのよう

に象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。

大いなる最後の報いの日に、死者は、『そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれ』る（黙示録20：12）。このとき、真に悔い改めたすべての者の罪は、キリストの贖罪の血によって、天の書物から消される。こうして、聖所から罪の記録が除かれ、清められるのである。象徴においては、この大いなる贖罪のみわざ、つまり、罪を消し去ることは、贖罪の日のつとめによってあらわされた。すなわち、地上の聖所を汚していた罪を除いて清めることは、罪祭の血によってなしとげられた。真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなるように、象徴では罪は荒野に追いやられ、会衆から永遠に切り離された」。あけぼの上 422

下のチャートを見てください：

「死んだ義人は、審判がすみ『生命を受けるためによみがえ』るにふさわしい者とされるまでは、復活することはない」。大争闘下 214





外庭

聖所

至聖所

祭壇

洗盤

7つの燭台

香壇

パンの机

罪の除去  
=  
完全

「イエスはそこで箱の前に立って、恵みがな  
お与えられているすべての人々と、知らずし  
て神の戒めを破った人々のために最後の仲保  
をしておられるのである。この贖罪（罪の除  
去）は、生きている義人とともに、死んだ義  
人のためにも行われる。これは、キリストを  
信じて死んだすべての人を含んでいるが、彼  
らは神の戒めに関する光を受けなかったため  
に、知らずして戒めを破って罪を犯したので  
ある」。初代文集 415

天国に行くには、もう一つの手続きが必要であ  
ることをお分かりいただけただけでしょうか？

この最後の、もう一つの手続きがあることを理  
解しないと天国に行けないのです。アドベンチス  
ト、すなわち、花婿がおいでになるのを待っている  
民は、まだこの経験を持っていません。この特  
別な働き—罪の除去、後の雨、生ける神の印のこ  
とを婚姻のたとえでイエスは説明しています。マ  
タイ 25 章の 10 人の乙女のたとえ話によると、再  
臨信徒は居眠りしていると言われています。婚姻  
の部屋に入っていないのです。

「眠っている教会は、霊的な無気力から目覚め  
させられ、やり残されている重要な義務を認  
識させられなければならない。民は、イエス  
がご自分の子らのために贖いをするために行  
かれた聖所に、まだ入っていない。この時代  
の真理を理解するためには、聖霊が必要です」。  
RH1892,2/25

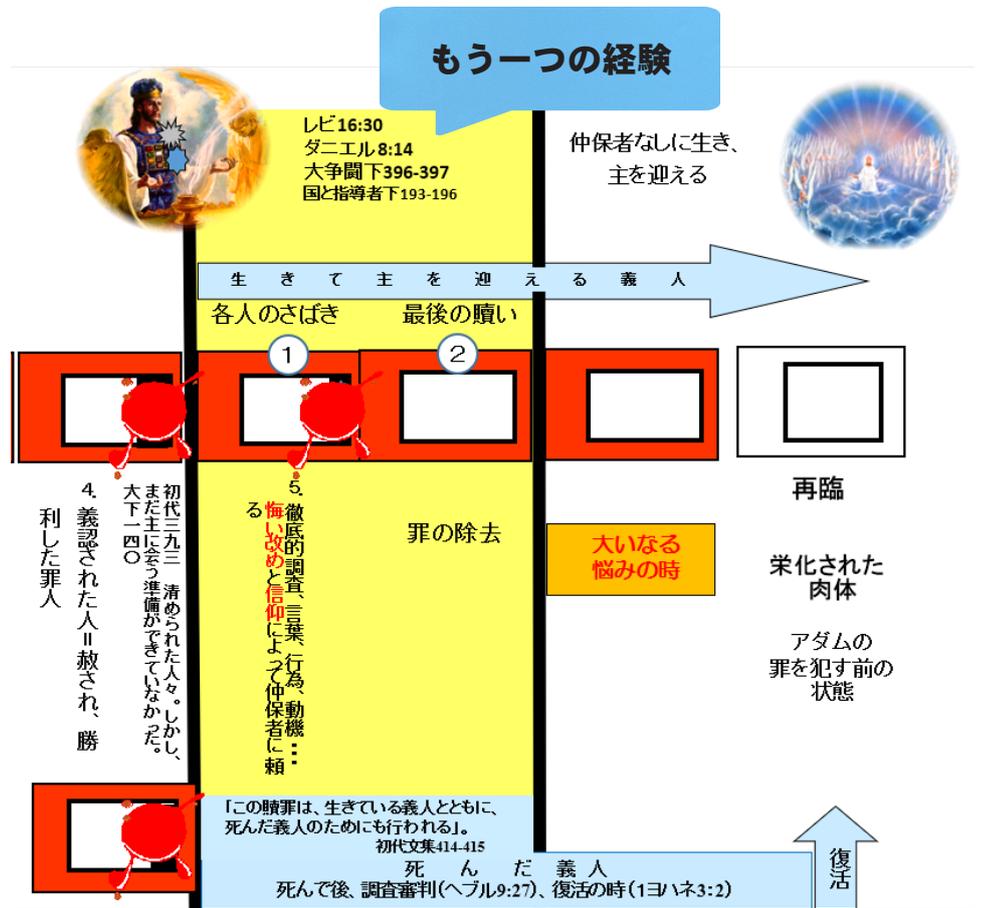
## 婚姻の部屋に入るとはどういうこと なのでしょう？

「しかし、彼らは、主の働きをよく理解し、彼  
が神の前に出られるのに信仰によって従って  
いかねばならない。この意味において、彼らは、  
婚姻のへやに入ったと言われているのである。

たとえによると、婚姻のへやに入ったのは、  
あかりとともに器に油を持っていた者たちで  
あった。聖書から真理の知識を得るとともに、  
聖霊と神の恵みとを持っていた人々、厳しい  
試練の夜も、忍耐して待ち、より明らかな光  
を求めて聖書を研究した人々、—これらの人々  
は、天の聖所に関する真理と、救い主の務め  
の変化とを認め、信仰によって、天の聖所  
における彼の働きに従っていった。そして、聖  
書のあかしをとおして同じ真理を受けいれ、  
キリストが仲保の最後の働きを行なうために、  
そしてその最後にはみ国を受けるために、神  
の前に出られるのに信仰によって従っていく  
者たちは、すべて、婚姻のへやにはいるもの  
として表わされているのである」。大争闘下  
143-145（日本語の訳が間違っている。婚姻  
〔marriage〕と婚宴〔marriage supper〕は異  
なる出来事）。

つまり、端的に言って、聖所の働きと至聖所の  
働きの変化を理解することです。一般キリスト教会  
は、キリストが天の聖所で大祭司として働いてお

られることは理解して  
いますが、至聖所の働  
きは何であるのかを理  
解していません。この  
聖所と至聖所の働き  
の変化を理解することは、  
**「どんなにか重要であ  
ろう。……すべての者が、  
これらの問題を徹底的  
に研究し、彼らのうち  
にある望について説明  
を求める人にこたえる  
ことができるようにす  
ることは何よりも重要  
である」**。救い主の務め  
の変化を理解していな  
いために、その祝福に  
あずかることができ  
ていないのです！その祝  
福とは、大いなる悩み  
の時のシェルター、不  
死の備え、罪の除去—  
後の雨—神の印—罪な  
き完全な品性です。



「季節の終わり近く  
に降る後の雨は穀物を熟させ、刈り入れに備  
える。… 穀物が熟するというは、**魂の中  
に神の恵みのみ業が完結すること**を表してい  
る。聖霊のみ力によって**神の道徳的かたちが  
品性に完成される**のである。われわれは**全  
くキリストに似たものに変えられる**。… 先の  
雨がその働きをしないならば、**後の雨は完全  
の実を成熟させる**ことはできないのである」。  
TM506

罪がゆるされ、罪と自我に勝利するだけでなく、  
罪そのものが拭い去られるのです。これが**罪の除去**  
です。

生きて主を迎える人も、死んで罪の除去、最後  
の贖いにあずかる人も同じ条件であることに留意  
してください。

●**生きて主を迎える人も、死んで主を迎える人  
も調査審判前に完全にはなっていません**。先の雨で  
許され、勝利の経験を持っていないればなりませ  
ん。しかし、知らない罪は持っているかもしれませ  
んが、無知の罪をキリストの血は覆ってくださるの  
です。

●**生きて主を迎える人も、死んで復活して主を  
迎える人も①罪の除去、②最後の贖いという同じ手**

続きを経て天国に移されることことに留意してく  
ださい。どこが違うのですか？死んで主を迎える  
人は①②を体験しないし、大いなる悩みを通りませ  
ん。

生きて主を迎える人たちは、「国始まって以来か  
つなかつた大いなる悩み」を通過しなければなりま  
せん。そのことを思うと誰でも死んで休みにつくこ  
とを選びたいと思うでしょう。しかし、生きて主を  
迎えることを許されるなら、それもよしと考えたい  
ものです。

「もし神の子らが始めから終りを見通すことが  
でき、神の共労者として自分の果している栄  
光ある目的をみとめることができたなら、彼ら  
は、神がみちびかれる以外の道を決して選ば  
ないであろう。天に移されたエノクも、火の  
車で天へのぼったエリヤも、ただひとり牢獄  
の中で殺されたバプテスマのヨハネより偉大  
であったのでもなければ、彼よりとうとばれ  
たのでもない。『あなたがたはキリストのため  
に、ただ彼を信じるだけでなく、彼の  
ために苦しむことをも賜わっている』(ピリピ  
1：29)。天が人に与えることのできる**すべての  
賜物の中で、キリストと共にその苦難にあ  
ずかることは、最も重い信任であり、最高の**

「榮譽である」。1 希望 282

神の律法、ご品性を全宇宙に擁護する特権に預かることができるのです!! 「生くるうれし、死ぬるもよし、主にあるわが身の幸はひとし」(賛美歌 361)。そもそも我々は主のために存在しているの

です。

「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」。イザヤ 43:7

## キリストを知る機会がなかった人たちは天国に入れないのでしょか？

ああ、神の愛のご配慮は何とすばらしいことでしょう!!

「さばきの時に、キリストからほめられる者たちは、神学についてはほとんど知っていなかったかも知れないが、彼らはキリストの原則を心に宿していた。天来のみたまの感化を通して、彼らはまわりの人たちの祝福になっていた。異教徒の中にさえ、親切心のある人たちがいる。いのちのみことばを聞かないうちから、彼らは宣教師たちと親しくなり、自分自身の生命の危険をおかしてまで宣教師たちに奉仕した。異教徒の中には、知らないで真の神を礼拝している人たち、すなわち人を通して光を与えられたことのない人たちがいるが、それでも彼らは滅びないのである。彼らは書かれた神の律法については無知であるが、自然を通して語りかける神のみ声を聞き、律法に要求されていることを実行した。彼らのわざは聖霊が彼らの心に触れた証拠であって、彼らは神の子らとして認められる」。3 希望 108-109

「この祝福の言葉が語られているのは、キリストの品性の原則と精神を大切にしてきた人たちである。彼らは主イエスを愛し、真の敬虔と単純さの中で主イエスに仕えてきた。彼らは神学の理論や教義をほとんど知らなかったが、彼らに関わるすべての人に祝福を与えた。異教徒の間にも、親切の精神を大切にする人々がいて、派遣された宣教師に力の及ぶ限りの助けを与えている人たちがいる。彼らは知らないで神を崇め、彼らの多くは光のメッセージが与えられていない。それでも彼らは滅びることはない」。ST1893 年 8 月 7 日

「バビロンを構成する諸教会は、霊的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。この時代のための特別な使命をまだ悟っていない人々が多くいる。自分たちの現状に満足せず、もっと明らかな光を待ち望んでいる者が、少なくない。彼らは自分たちの所属する教会の中に、キリストの姿を見ようとしても見ることができない。…

黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14：6-12 の三重の使命を拒否した結果、第二天使の使命が預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後の使命である。…そのとき、真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、「わたしの民よ。彼女から離れ去」れという招きの声に耳を傾けるのである (黙示録 18：4)」。大争闘下 93

「真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである」。大争闘下 383

「ローマ・カトリック教会の中に真のキリスト者たちがいることは事実である。…うわべだけの、満たされない信仰の中で教育されたこれらの人々を、神はやさしいあわれみをもってごらんになる。神は、彼らを取りまいて濃いつまらぬ暗黒に光が射し込むようにされる。神がイエスのうちにある真理を彼らに示されるので、やがて多くの者が神の民とともに立つのである」。大争闘下 321



## 歴史と聖書の預言

各時代の大争闘 E・G・ホワイト

1冊で 950円/冊  
 10冊以上で 850円/冊  
 50冊以上で 650円/冊  
 100冊以上で 500円/冊

商品番号:B20-4 A5サイズ

「各時代の争闘」の再版で、カラーの写真、絵入りの、読みやすい新しいレイアウトです。現代の真理の書籍中、最も重要なこの本を至るところで秋の木の葉のように散らしましょう。あらゆる欺瞞の中にある現代人に正しい識別力を与え真の希望を与える必読の書。

## 讃美歌集&CD 契約の虹

讃美歌 160 選



商品番号:B70-1 A5サイズ、歌集 1,600 円  
 :C70-1 CD8枚組 4,000 円  
 :BC70-1 歌集&CDセット 5,000 円

日本基督教団讃美歌、聖歌、リバイバル聖歌、他から160曲を選びました。音程が高い調は低くして歌いやすくしています。全160曲を収録した音楽CDもあります。

## まんが聖書大旅行

デイビット・キム



史実にもとづく資料を取り入れた聖書物語まんが。12巻セット。オールカラープリント

11,760 円

商品番号:B42-28 A5サイズ、12巻セット



チャンネル登録をしていただくと最新の動画の通知が届きます。ぜひご利用ください。



サンライズミニストリーチャンネル  
 礼拝説教の字幕動画や時事ニュース、セミナー、ドキュメンタリー動画など聖書に関連した動画を多数配信



サンライズ今帰仁教会安息日ライブチャンネル  
 毎週土曜日午前10時より聖書研究と説教メッセージをYouTubeライブ放送中。



サンライズミニストリー讃美歌専門チャンネル  
 讃美歌、その他音楽プログラムを配信中。



サンライズミニストリー子どもチャンネル  
 子ども向けの聖書のお話や子どもさんびか、動物の話などを配信中。



オンラインストアも  
 ご活用ください！



www.sunriseministry.shop